VALQUA
Corporate Report

パルカー コーポレートレポート

Corporate Profile & Sustainability Report 2024-2025

VALQUA Group

お問い合わせ先：株式会社バルカー

総務部　TEL 03-5434-7370　FAX 03-5436-0560

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

https://www.valqua.co.jp

UD FONT
見やすく読み
まちがえにくい
ユニバーサル
デザインフォントを
採用しています

FSC ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
www.fsc.org FSC® C020887

CARBON ZERO PRINT
SUSTAINABLE PRINTING ASSOCIATION OF JAPAN
SPA-230001-J

この印刷物はサステナブルな社会の実現を目指して、適切に管理された森林およびその他の管理された供給源由来のFSC®認証紙を使用し、Scope1とScope2のCO₂排出量を実質ゼロにしたカーボンゼロプリント工場で印刷しています。

ノンVOCインキ Ver.2

※本印刷物は読みやすく、環境に配慮した素材と印刷・加工方法で作成しています。

発行年月：2025年7月

CONTENTS VALQUA CORPORATE REPORT 2025

- コーポレートレポート2025について 03

OUR COMPANY
- トップメッセージ 04
- バルカーグループの事業概要 08
- バルカーと社会との関わり 10

OUR STRATEGY
- 特集 1 日本の半導体産業発展に貢献する ライニングタンクの国内生産再開 12
  バルカーミカワフロンテック環境配慮型新工場
- 特集 2 モノづくりの現場にデジタルで新たな「安心・安全」を 14
  H&S企業へ向けた、バルカーの新たなチャレンジ

OUR SUSTAINABILITY
- サステナビリティ マネジメント 18
- サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定 19
- サステナビリティ重要課題 20
- 環境 22
- 安全衛生 25
- サプライチェーンマネジメント 26
- 人材・人権 27
- 顧客満足 29
- 特集 3 「THE VALQUA WAY」をグローバルに実現 30
  バルカー技能グランプリ
- コミュニティ 32
- コーポレート・ガバナンス 34
- コンプライアンス 37

DATA SECTION
- バルカーグループネットワーク 40
- コーポレートデータ 42

コーポレートレポート2025について

編集方針

バルカーグループのサステナビリティに関する基本的な考えと、
サステナビリティ重要課題に沿った取り組み、
さらに経営情報などの企業情報を掲載しています。
ステークホルダーの皆さまには、
現在のバルカーグループ全体像を知っていただき、
また当社グループの目指す事業活動、
サステナビリティ活動に関してのご理解をいただけたらと思います。
本レポートは、冊子で発行し、同時にホームページ上にも掲載しています。

発行年月	2025年7月発行（前回2024年7月）
報告対象期間	2024年4月1日～2025年3月31日 （一部、2025年4月以降の情報も含みます。）
発行責任部署および連絡先	株式会社バルカー 総務部 総務グループ 総務企画チーム **E-mail：csr@valqua.com**
報告対象範囲	株式会社バルカーおよびその連結子会社14社 （女性管理職比率はバルカー単体の数値としています。）
参考にしたガイドライン等	GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、 SDGs（持続可能な開発目標）、RBA行動規範
報告媒体	**PDF版** 重点的なサステナビリティに関する取り組みを年次レポートとしてまとめています。 **https://www.valqua.co.jp/social/report/**
	Web版 Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 **https://www.valqua.co.jp/social/**

Top Message

未来と未知に挑むチャレンジングな 企業へ
人を育み、次代を拓くバルカーの取 り組み

代表取締役会長CEO
瀧澤 利一

1 「THE VALQUA WAY」を基軸に、「Well-being経営」を推進

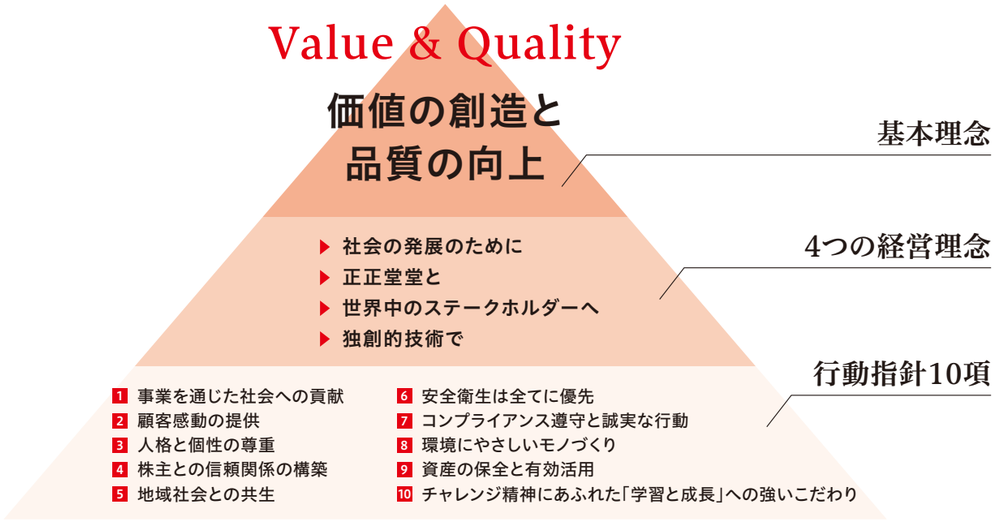
ビジョナリー経営の深化へ

当社グループでは、2027年の創業100周年に向けて「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げ、その実現へ向けて、これまで実践してきたビジョナリー経営（理念経営）のさらなる深化に取り組んでいます。

当社のビジョナリー経営は、企業理念「THE VALQUA WAY」を基軸としており、さらに2024年度を「Well-being経営」元年と位置付け、バルカーならではの“経営の両輪化”を進めています。

「THE VALQUA WAY」は、従業員の正しい行動と判断を導く指針です。一方、「Well-being経営」では『やらされ感よりワクドキ感』を合言葉に、従業員一人ひとりがチャレンジを通じて苦難を乗り越え、やりがい、働きがいを感じながら仕事に取り組めるよう働きかけ、ステークホルダー全体のWell-being向上を目指しています。

2024年6月には、瀧澤利治COOがCWO（Chief Well-being Officer）を兼務する体制とし、CEOである私と役割を分担しながら新たな経営体制のもとでビジョナリー経営の深化に努めています。



また当社では、ビジョナリー経営の実践を通じて、創業100周年とその先を見据えた、健全で持続的な成長、および企業価値向上を目指しています。その実現に向けた道筋として、2024年度より中期経営計画「New Frontier 2026（NF2026）」を策定し、取り組みを進めています。NF2026では、「人材育成」「サプライチェーンの改革・強靭化」「AI/ITソリューション事業拡大」「技術流出の防止および新領域・新技術の見極め」「グローカリゼーションの徹底」などを基本テーマに据え、それぞれに即した施策を年度ごとに展開しています。

2 中期経営計画NF2026の進捗と今後の展開について

NF2026の初年度となる2024年度は、世界の分断が急速に進み、デジタル化によりビジネスモデルが激変する事業環境を想定していましたが、米国の新政権の動向をはじめとする地政学リスクの一層の高まりにより、世界情勢はさらに混迷の度合いを深めています。こうした先行き不透明な環境下においても、当社グループは将来の成長に向けて、研究開発、デジタル商品開発投資、人材投資など、次なる基盤構築に積極的に取り組みました。その結果、業績としては減収減益となったものの、半導体市場向け高機能シール事業が回復基調に入り、成長軌道への復帰を実感できる状況となりました。

NF2026の基本テーマのひとつ「サプライチェーンの改革・強靭化」では、国内では愛知県田原市、海外ではベトナムにおいて生産拠点を新設。また「人材育成」では、現場技能者をはじめとする従業員のWell-beingを促す取り組みとして、技能向上を目的に「バルカー技能グランプリ」を初開催し、大きな手応えを得ました。さらに「AI/ITソリューション事業拡大」では、設備点検プラットフォーム「MONiPLAT®」など、開発したソリューション製品が市場で着実に成長を見せています。

NF2026の2年目となる2025年度は、サプライチェーン改革をさらに加速させていきます。国内では、半導体工場の増設が急速に進むなか、田原市の新工場において、旺盛な需要が見込まれる半導体用ふっ素樹脂ライニングタンクなどの生産を開始する予定です。海外では、ベトナムの新製造拠点の拡充を進め、2026年度の本格稼働後には、ASEAN域内はもとより、世界各地の半導体などの成長市場に対し、高機能シールおよび機能樹脂製品を供給していく計画です。また「AI/ITソリューション事業拡大」でも事業成長を目指します。

トップメッセージ

3 H&S企業としての成長へ向けて

デジタルイノベーション元年の取り組み

NF2026では、2024年度をデジタルイノベーション元年と位置付け、「AI/ITソリューション事業拡大」を重点施策として強化を図りました。

当社は2014年度より、ハード製品（H）とサービス製品（S）の両面で新たな価値を創造する「H＆S企業」への変革に取り組んでいます。機器・プラント市場で培った顧客基盤と人材力を価値創造の源泉とし、デジタルAIや、センシング技術などを活用した新たなサービスビジネスの創出を進めています。近年は開発体制の強化を図り、設備点検管理サービス、およびデジタルを駆使したハード製品の販売サービス、この二つの領域で新規開発を進め、製品化して市場に送り出してきました。

設備の安全管理サービスでは、スマートフォンで容易に設備点検が行える中小企業向けクラウドサービス「MONiPLAT®」を開発し、2023年4月から販売を開始しました。「MONiPLAT®」は、これまでにない画期的な設備保全のプラットフォームとして、2025年6月時点で累計1,400顧客に導入されています。その革新性が評価され、2024年には「日本DX大賞」を受賞しています。また、大規模プラント向けには、保全業務をデジタル化した「SPM」（Smart Plant Management）も提供し、日本の生産現場の安全に貢献しています。

ハード製品販売のデジタルサービスでは、樹脂素材をカバーする「素材Pro」、ふっ素樹脂加工品をラインアップする「Quick Value™」、この2つのサービス（モノ売りのデジタル化）を展開し、当社ならではのきめ細やかなソリューションを提供しています。

加えて、工場や研究開発現場の効率化をはじめとする社内DXも推進し、収益力の強化につなげています。今後も、前提や慣習にとらわれることなく、データとデジタル技術を活用し、組織、プロセス、企業文化・風土の変革に資するデジタルマインドの醸成を継続してまいります。

左）日本DX大賞2024の「ビジネストランスフォーメーション（BX）部門」において大賞を受賞
右）2023年4月よりMONiPLAT®のCM放映を開始（テレビ東京）

4 信頼関係をベースとした人材育成のために

2024年9月、外部通報により当社執行役員および従業員が特定の取引先と不適切な関係を持ち、不正行為に関与していた事実が判明しました。当社グループは直ちに特別調査委員会を設置し、外部専門家の協力のもと、徹底的な調査を実施。その結果を調査報告書として取りまとめ、再発防止策とともに外部発表を行いました。ステークホルダーの皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを、経営トップとして心よりお詫び申し上げます。全社を挙げて再発防止と信頼回復に取り組み、誠実な経営を推進してまいります。

この事案を受け、私は改めてバルカーグループが100周年を超えてなお健全かつ持続的に成長していくためには、いかなる基盤が必要かを深く見つめ直しました。これまで私はビジョナリー経営を貫き、「THE VALQUA WAY」の理念共有に心血を注いできましたが、まだ道半ばであると実感しています。変化の激しい現代においては、現場に立つ従業員一人ひとりが「THE VALQUA WAY」を深く理解し、共有しながら、ソウゾウ（想像と創造）力を発揮して変化を先取りし、何をすべきかを正しく判断・行動し、仕事を進化させていくことが求められます。今後も私のライフワークである「CEO THE VALQUA WAY 浸透推進フォーラム」や「CEOラーニング（ティーチング&コーチング&メンタリング）」を通じて、従業員との対話をより一層深め、自律的な成長を後押ししてまいります。そして、現場を信じ、現場に任せる経営を、今後も実践し続けてまいります。

中期経営計画NF2026

中期経営計画 New Frontier 2026（NF2026）の価値創造

当社は1927年の創業以来、「縁の下の力持ち」としてあらゆる産業の発展を支え、時代のニーズに応えながら成長してまいりました。

2024年度にスタートした中期経営計画NF2026では、半導体市場向け製品と、デジタルソリューションを新たな価値創造へ向けた戦略領域と定め、成長を加速させる取組みを実施しています。半導体市場向け製品に関しては、世界的なIoT・AI化の流れのなかで、半導体の生産や技術の進歩に必要不可欠な製品の供給を通じて、より豊かで快適な社会への発展に貢献してまいります。一方、デジタルソリューションに関しては、日本の生産現場における人手不足など、さまざまな社会的課題の解決に貢献するため、当社ならではのソリューション、サービスの提供に努めております。世界経済の見通しが不透明ななか、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、社会の安心・安全と変革に寄与し、新たな価値創造に邁進いたします。

2024年度における NF2026の進捗について

2024年度は、半導体関連の回復が想定より鈍く、連結業績に課題を残す結果となりました。他方、中期経営計画で策定した戦略的な成長投資や構造改革については着実に進捗しており、当社創業100周年とその先に向けた成長の土台は整いつつあります。特に2024年度は半導体市場向けの生産力強化に取り組み、愛知県田原市に当社32年ぶりとなる国内新工場を建設いたしました。

また、ベトナムでも高機能シールおよび機能樹脂製品の生産体制の整備・増強を進めております。これらの取組みを着実に進め、半導体市場の成長をグローバルに取り込んでいくことを目指します。また、デジタルソリューションも、メンテナンス現場での採用実績が徐々に積みあがってきており、当社の新しい価値創造の形が作られつつあります。

2025年度は、これら戦略遂行を加速させながら、中期経営計画の最終年とその先へ向けて、当社業績を成長軌道に乗せていく一年としてまいります。

（New Frontier 2026）中期経営計画（NF2026）の基本方針

世界の分断が急激に進みデジタル化によるビジネスモデルが激変する環境下において「THE VALQUA WAY」のもとマルチ視点でステークホルダーの最高満足に向けて新たな価値創造に邁進しよう

1. 激変する世界において本質を追求する目線の確立とそれに伴う人材育成
2. 地政学リスクの増大に対応したさらなるサプライチェーンの改革と強靭化
3. デジタルイノベーション加速による新たなAI／ITソリューション事業のマネタイズ
4. 「技術流出」の徹底防止と新領域・新技術の見極め
5. 「Think Globally, Act Locally」によるグローカリゼーションの徹底

創業100周年（2027年）のありたい企業像 未来と未知に挑むチャレンジングな企業

- あくなき成長戦略の追求とモニタリング
- 成長をゆるぎないものにする経営基盤の強化
- より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組みを実践する

代表取締役社長
COO 兼 CWO
瀧澤 利治

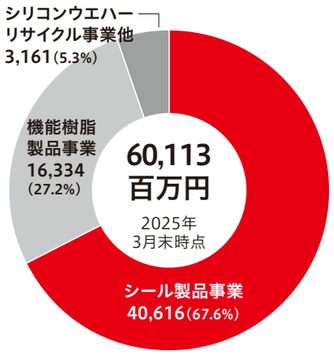
バルカーグループの事業概要

バルカーグループは、シール製品事業や機能樹脂製品事業などをグローバルに展開しています。

バルカーグループの事業

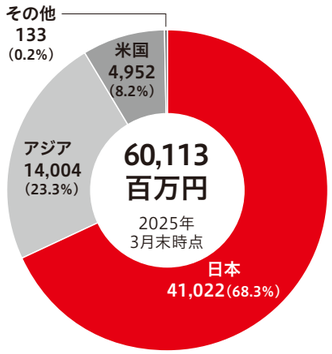
セグメント別売上高（百万円）

※百万円未満切り捨て



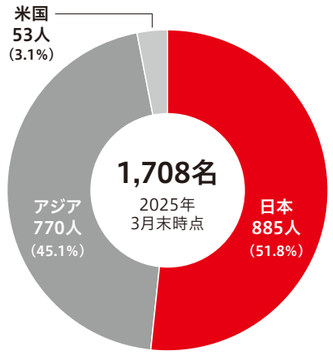
地域別売上高（百万円）

※百万円未満切り捨て



地域別従業員数

※平均臨時雇用者（171名）含む



その他データについては、当社ホームページからご確認ください。https://www.valqua.co.jp/

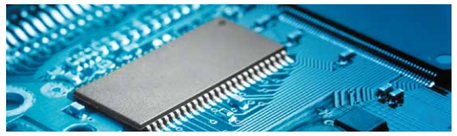
事業概要一覧

シール製品事業

主に、プラント・機器関連製品・エラストマー製品・自動車部品に係るシール製品の開発、生産、販売

バルカーグループの主力事業として、さまざまな産業向けに配管・機器用のシール材を提供しています。先端産業市場、また、機器市場やプラント市場向けに、DXによる新たな価値を提供していきます。

機能樹脂製品事業



主に、ふっ素樹脂製品を中心とする機能樹脂製品の開発、生産、販売

機能樹脂の優れた特性を活かして半導体装置・産業機械をはじめ多様な分野で使用されています。先端産業市場・プラント市場に向けた戦略製品を軸に、サプライチェーンの整備を図り、グローバルに価値を提供していきます。

事業内容

産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴム等各種素材製品を設計、製造、加工および販売。ソフトウエアおよび情報機器の開発および販売、関連する電子商取引等インターネットを利用した各種サービスの提供、コンサルティング、エンジニアリング、その他技術・ノウハウに関する事業

The history of VALQUA

バルカーの歩み

昭和	1927年 1月	自動車および高速機械用ブレーキライニングの製造・販売を目的として、大阪府に日本ブレーキライニング製作所を創立
	1932年 4月	日本バルカー工業株式会社を設立。工業用パッキンの生産を開始
	1941年 6月	航空機用合成ゴムパッキン、ジョイントシートの製造を開始
	1952年 2月	ふっ素樹脂の加工技術研究が完了、日本で最初の製品化。商品名を「バルフロン」として製造・販売を開始
	1969年 7月	合弁会社、台湾バルカー工業股份有限公司を設立
	1975年 9月	東京証券取引所、市場第一部に株式上場
	1988年 7月	合弁会社、VALQUA INDUSTRIES（THAILAND）, LTD.を設立
平成	1993年 11月	奈良工場を新設。高機能ゴム製品の製造を開始
	1998年 6月	VALQUA AMERICA, INC.を設立
	2000年 3月	台湾バルカー国際股份有限公司を設立
	2000年 12月	バルカーシール（上海）有限公司を設立
	2002年 9月	バルカー（上海）貿易有限公司を設立
	2004年 3月	VALQUA KOREA CO., LTD.を設立
	2006年 1月	M・R・Tセンターを開設（東京都町田市）
	2008年 4月	VALQUA VIETNAM CO., LTD.を設立
	2010年 9月	ダイキン工業株式会社との事業・資本提携による中国業務拡充スタート
	2017年 3月	現・バルカーNGCを買収し、連結子会社化
	2017年 11月	VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.を設立
	2018年 10月	商号を株式会社バルカーへ変更
令和	2022年 4月	東京証券取引所、市場第一部からプライム市場へ移行
	2025年 4月	バルカーミカワフロンテック 田原工場 操業開始

バルカーと社会との関わり

私たちの“製品＆サービス”がさまざまなところで活躍しています。

A 医療機器・自動車・航空機器

ふっ素樹脂切削テープ

ふっ素樹脂を高度な技術で切削した気密性・摺動性・絶縁性に優れた製品です。

B 通信機器・携帯基地局

ふっ素樹脂基板

PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。

C 建設機械

Oリング

静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。

スラストプレート

ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カジリ防止などの役割を担っています。

D 変電所

ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を生かし、落雷の影響をなくす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

E 化学プラント

ふっ素樹脂ライニングボールバルブ

化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。

ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。

ふっ素樹脂ライニング鋼管

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。

F 自動車

オートマチック トランスミッション（AT）用ガスケット

ATを制御する油圧コントロール装置（バルブボディ）に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかで応答性の良い変速を行うために使用されています。

G 宇宙ロケット・人工衛星

メタル中空Oリング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星の他、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

シールエンジニアリングサービス

シールトレーニングセンター（STC）

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用法についての座学と、現場の配管フランジを模擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。

メンテナンス領域における デジタルソリューション

MONiPLAT®

設備の定期点検と状態監視を一元管理可能な設備点検プラットフォーム。スマホとPCでラクラク定期点検/設備管理。

VALQUA SPM SMART PLANT MANAGEMENT

プラントメンテナンスの計画、工事、検査、承認申請、データ保存、比較を日常保全から定修工事まで進捗を一元管理。

Quick Value™

図面をアップロードするだけで、ふっ素樹脂をはじめとした樹脂切削加工品の見積もりから発注まで可能なプラットフォーム。

H 半導体工場

ふっ素樹脂ライニングタンク

ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵に欠かせない製品です。

ふっ素樹脂ライニングISOコンテナ

半導体製造プロセスに欠かせない超高純度薬品を、純粋性を保ちつつ目的地まで搬送します。

高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。

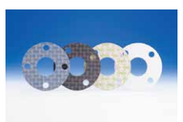
ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。

I 製鉄プラント

高機能シートガスケット

従来の製品から耐熱性を大きく改善しており、さまざまな流体が流れる配管フランジのシール材としてプラントで活躍しています。

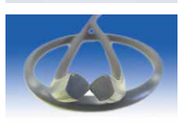


うず巻形ガスケット

金属材料を組み合わせた高強度のシール材で、高温・高圧で運転されるプラントの安全操業を支えています。

回転軸シール（LFR SEAL®）

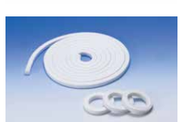
摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。



J 船舶

グランドパッキン

作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで使われています。



1

未来と未知に挑む／特集 1

日本の半導体産業発展に貢献するライニングタンクの国内生産再開

バルカーミカワフロンテック環境配慮型新工場

コロナ禍に起因する経営リスクの回避や円安問題、ロシアのウクライナ侵攻や米中対立に伴う経済安全保障の面などから、大きな潮流となっているのが製造業の国内回帰・リショアリングです。

バルカーグループが戦略的サプライチェーンの再編を行うなか、バルカーミカワフロンテックの田原工場が本格稼働しました。同工場は、半導体産業の国内復活を支えるライニングタンクの国内生産、開発を担う新たな生産拠点です。地域密着型企業として愛知県三河の地名を冠したバルカーミカワフロンテックは、バルカーの技術力と若さ溢れる人材が集結した、情熱の拠点です。

半導体国内生産とサプライチェーン

半導体は、スマートフォンやパソコン、オートモーティブなど、現代社会に欠かせない主要部材であり、情報化社会の重要インフラとして、今後も技術革新や市場規模の拡大が見込まれています。日本では、国家戦略として半導体産業の国内復活と競争力強化を掲げており、世界最大の半導体ファウンドリTSMCの子会社（JASM）が熊本県で生産を開始するなど、国内生産の重要性が高まっています。

このような背景のなか、私たちバルカーグループは、生産拠点を主に海外に置いてきたライニングタンク事業で、日本国内に工場を新設するという大きな決断を下しました。ライニングタンクは、半導体チップの生産プロセスで使用される高純度の薬液を貯蔵する半導体製造に不可欠な特殊タンクです。バルカーミカワフロンテックの田原工場は、ライニングタンク製造では国内最大級、クリーンルーム内で製造を行うという先進的な製造拠点です。高い生産効率で安定した製品供給を実現し、日本の半導体産業を支える重要な役割を担っています。

ライニングタンクのバルカー

バルカーは、1972年に国内初のライニングタンク生産を開始して以来、ライニングタンク製造のパイオニアとしての地位を確立してきました。2000年に台湾バルカー国際股份有限公司を設立し、台湾の世界的な半導体顧客と関係を構築しながら、グローバル展開を推進してきました。その台湾グループ会社が2021年に稼働させた新工場は、敷地面積約15,000㎡、延べ床面積約6,600㎡を誇る規模で、グローバルサプライチェーンの中核拠点として成長を遂げています。

田原工場では、高品質へのこだわりをさらに強化し、環境負荷を低減した環境にやさしい製造方法を採用しています。製造から修理、法定点検、予知保全までを一気通貫で対応し、サプライチェーンの分断リスクを低減しました。これにより戦略的サプライチェーンマネジメントも実現できました。私たちはライニング製造の真のスペシャリストとして進化を遂げ、世界のライニング製造を牽引し続けることを目指しています。

世界最高峰の生産工場へ

「このタイミングでの新工場建設は、国内で失われつつあった技術力を復活させるチャンスでした。我々はこの田原工場を、バルカーグループの専門技術者たちの知恵と情熱を結集させ日本回帰を実現させた世界最高峰の工場にしてみせます」と、バルカーミカワフロンテックの東野社長は熱く宣言します。

しかし、建設に際しては苦労もありました。生産部の西場課長と、一級建築士の資格も持つ大橋係長によると、準工業地帯での建設のため危険物や環境関連の規制が厳しく法令遵守のために苦労したこと、この地域ならではの冬期の強風に建設が進まず泣かされたことなど、いくつもの困難があったとのこと。それらを乗り越えてようやくたどり着いた本格稼働でした。そして、建設が終わった今、次のミッションである量産立ち上げや技術者の育成に、社員が一丸となって、精力的に取り組んでいます。

国内最大級、田原工場の特徴

田原工場は、バルカーグループにおいて国内最大級の規模を誇る先進的な製造拠点です。その最大の特徴は、クリーンルーム内での製造プロセスを採用していることで、微細な異物混入を徹底的に防止し、製品の品質を最大限に高めています。また、ふっ素樹脂ライニングタンクの設計段階にはじまり、材料からの一貫生産において、最新の設備と生産管理システムを導入、高い生産効率を実現しました。もう一つの特徴は、環境負荷を低減した製造方法の採用です。これらにより、コスト削減と環境負荷の低減を両立し、持続可能な製造を目指しています。

地域への貢献

2025年1月1日、株式会社バルカーメタルテクノロジーは、株式会社バルカーミカワフロンテックと社名を変更しました。新社名に「ミカワ」を冠したのは、愛知県東三河の地に根差し、地域社会とともに発展していくという決意を示すものです。そして、三河から世界へ挑戦するという強い思いも込めています。

地元人材の積極採用を行い、地域経済の活性化を図るとともに、地元団体への参加や地域イベントへの協力を通じて、地域社会とのつながりを深めています。私たちは、地域とともに成長し、未来を見据えた企業活動を展開することで、地元の皆さまに信頼される存在を目指しています。

Well-beingの取り組み

田原工場では、従業員や来訪者が心地よく過ごせる環境づくりを目指し、Well-beingの推進に力を入れています。その一環として、日々の感謝を伝える「ありがとうのメッセージカード」を活用し、職場内でのコミュニケーションを活性化。従業員同士の絆を深めるとともに、感謝の気持ちを共有する文化を育んでいます。また、社交ダンスを取り入れた活動を通じて、心身のリフレッシュや健康促進を図り、従業員の笑顔が絶えない職場環境を実現しています。

さらに、来客者には「ウェルカムボード」や「メッセージカード」で温かいおもてなしの心を表現。これらの取り組みを通じて、従業員や地域社会にとって魅力的で心地よい存在を目指しています。

田原市長コメント

このたび、貴社の田原工場が無事に竣工を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、新たな拠点を構えるにあたって田原市をお選びいただいたことに、深く感謝申し上げます。

貴社は、半導体をはじめさまざまな産業向けに高品質な製品を提供されており、世界の先端産業の一翼を担う企業であることを、かねてより拝承しております。今回の新工場の完成は、田原市の産業振興や雇用創出に大きく寄与されるものと大いに期待しております。

田原市といたしましても、企業活動がより円滑に行われるよう、引き続き全力で支援してまいります。

田原市長
山下 政良

VOICE 従業員の声

生産部製造課 班長 泉原 健一

工場立ち上げという大変やりがいのある部署横断プロジェクトの最中ですが、お互いに助け合い、思いやりを持って仕事をしています。1歳の子どもがいますので、時間単位の有給休暇制度に助けられています。

生産部製造課 チーフ 鈴木 翔太

バーベキューなどの社内イベントが新鮮で、社交ダンスもやりたくて自主的に参加しています。工場勤務経験がなく中途入社したため不安でしたが、上司からの具体的な指導に助けられ、シート班をより良い方向へ先導したいと思っています。

生産部製造課 河合 葵

周囲に質問しやすく、困ったときにフォローし合える環境です。従業員同士が日々の感謝を伝え合う「ありがとうのメッセージカード」というウェルビーイングの取り組みが気に入っています。

未来と未知に挑む／特集 2

モノづくりの現場にデジタルで新たな「安心・安全」を

H&S企業へ向けた、バルカーの新たなチャレンジ

バルカーグループは、創業以来の「安心・安全」への強い思いを胸に、製品（Hard）とサービス（Service）を融合する「H&S企業」への変革を力強く進めています。その核となるのが、企業理念「THE VALQUA WAY」に深く根差したDXソリューションです。「社会の安心・安全」と「新たな価値創造」という使命をデジタルの力でさらに高い次元へと引き上げ、お客さまの多様な課題解決に貢献するユニークなサービスを展開し、その価値提供の範囲を広げています。

執行役員 デジタル戦略本部長 木下 祐介

モノを売って終わりではない、知識とノウハウで支え続ける企業へ

バルカーグループのソリューションビジネスの萌芽は、1990年代後半に遡ります。当時高まっていた、当社製品をより安全に施工・管理したいというお客さまの声。これに応える形で、シールエンジニアリング分野で熟練技術者の高度なスキルを可視化し、教育プログラムとして体系化した体験型研修施設「シールトレーニングセンター（STC）」を設立しました。これは、単にモノを売るだけでなく、知識やノウハウで価値を提供するという、私たちのサービス事業の原点です。こうしたサービス化への探求と並行し、社会のIT化黎明期という時代の変化にも着目していました。これらの経験と探求を礎に、2014年、バルカーグループは明確に「H&S企業」への転換を宣言し、ソリューション開発を本格化。2021年にはデジタル部門の最高責任者を迎え入れて体制を一層強化し、開発を加速させました。以降、サービス開発が円滑に進行し、製造業関連設備のサポート分野で「MONiPLAT®」「VALQUA SPM」、製品販売ソリューションの分野で「Quick Value™」「素材Pro」という4サービスを製品化し、拡販を開始したのです。なかでも「MONiPLAT®」は1,400顧客を突破するなど、すでに大きな成果も出ています。今後は、サービスの拡充とともに、既存システムの機能強化に努め、事業の柱として育成を図ります。

製造現場の知見を活かした、デジタルサービス開発への挑戦

バルカーグループのソリューションビジネスは、当社製品を起点に、隣接する2つの領域、具体的には「製造業関連設備のサポート分野」「製品の販売をデジタル化した販売ソリューション分野」をターゲットとしています。

一つ目の「製造業関連設備のサポート分野」では、お客さまのプラントや工場における安全管理とメンテナンス業務の高度化に貢献します。従来のアナログな点検作業などをデジタル化することで、現場の「安心・安全」を確固たるものにしつつ、業務効率の大幅な向上を実現します。当社のプラント施工管理プラットフォーム「VALQUA SPM」は、その具体的なソリューションです。従来は紙に依存していた作業をデジタル化し、現場の進捗状況をリアルタイムに可視化します。この革新性が評価され、国内の大手石油精製会社様では全事業所のプラント工事におけるシステムとして導入が進んでおり、安全管理の抜本的な高度化に貢献しています。

二つ目の「製品販売ソリューション分野」では、単なる「モノ売りのデジタル化」にとどまらず、販売プロセス全体に潜む非効率を解消し、お客さまに新たな価値を提供することを目指しています。見積もりの迅速化、設計段階での的確な提案など、これまでの商習慣を超える利便性を追求し、お客さまにとって頼れるパートナーとなるべく、サービスの進化を続けています。これらのソリューション開発を支えるのは、バルカーならではのアプローチです。私たちは、①真の顧客ニーズの追求、②お客さまとの長期的な信頼関係の構築、③営業と開発が一体となる「ワンチーム」での共創、そして④迅速な市場投入と顧客フィードバックに基づく継続的な改善サイクル、この4つをチームの行動指針としています。長年培ってきた製造業としての知見、自社工場での実証運用による開発精度の高さ、そしてスケールメリットを活かしたイノベーションの推進力も、私たちの揺るぎない強みです。

現場の課題から生まれたMONiPLAT® 安全を漏らさない仕組みづくり

01 製造現場で見えた課題が、デジタル変革の原点に

“1日何回も製造設備の温度チェックをして紙に記録し、ファイルに保存する”

バルカーに入社した中澤剛太CDO※が、グループ会社の生産現場を視察中に目撃したこのシーンが、MONiPLAT®開発のきっかけとなりました。このアナログで非効率な設備メンテナンスのオペレーションに、中澤CDO※は強い問題意識を抱きます。「大手メーカーのバルカーでさえこの状況ならば、日本の中小企業の製造現場では、設備メンテナンスのデジタル化がほとんど進行していないに違いない」。

実際に市場を調べると、業界大手の設備メンテナンス製品は、費用が高額で、導入へのハードルはかなり高いことがわかりました。当時、デジタル開発部はバルカーグループの培った信頼、品質、チャネルを、自らのIT開発の経験と融合させ、「製造業の安心・安全」に関係したサービスを開発しようと模索していました。

そのなかで設備メンテナンスの重要課題に出合い、「設備メンテナンス領域でバルカーとデジタルを組み合わせれば、日本の製造業全体の効率的な進化に貢献できる」という構想を得るに至ります。

こうして中小企業でも導入しやすい手軽な設備メンテナンス・プラットフォームの製品化を目指して、バルカーの挑戦が始まりました。

02 現場の本質的なニーズを見極める開発思想

不具合のない完成品を市場に送り出す。それがハードウエアを主力としてきた当社に根付くモノづくりの常識でした。しかし、ソフトウエアはリリース後も顧客の声を聞きながら改善を重ね、価値を高めていくもの。この根本的な思想の違いが、MONiPLAT®開発を進める上で大きな壁となったのです。

そこでチームは従来の常識を問い直し、「真のユーザーファーストとは何か」という議論を徹底的に行いました。それは、単にユーザーの要望を聞くだけでなく、開発者の視点に偏ることなく、かつユーザー自身も気づいていない潜在的なニーズや本質的な使いやすさを引き出すこと。この「第三者の視点を取り入れたユーザーファースト」こそが、MONiPLAT®開発チームを貫く揺るぎない軸となったのです。

03 事業部の壁を越えた一体感が生む開発スピード

開発体制は、少数のコアチームを核にデジタル戦略本部を設置し、さらに事業本部も巻き込む形で、開発、デザイン、営業が一丸となった「ワンチーム」を構築。これにより、迅速かつ適応性の高い開発プロセスが実現しました。もちろん、高品質なハード製品をじっくりと作り込んできたバルカーにとって、迅速に市場投入し、お客さまからのフィードバックを元に改善を重ねて完成度を高めていくというデジタル製品特有の開発スタイルは、当初戸惑いを生むこともありました。しかし、実際にお客さまの声がダイレクトに届き始めると、その価値とスピード感が社員の意識を劇的に変え、組織全体の変革を加速させました。

「安心・安全を広くあまねく提供することは国益にもかなう」と語った瀧澤CEOの後押しもあり、MONiPLAT®は、2年に満たない短期間で当初の開発を終え、2023年4月にリリースを果たします。その後も進化しながら、お客さまの設備メンテナンスに貢献を続けています。

開発に携わって

サービスの構想から開発、リリースまでを短期間で実現する挑戦的なプロジェクトに携わりました。スピード重視のスケジュールにより、社内調整や関係者との連携調整が想定以上に複雑となりましたが、ビジネスレイヤーからデザイン・営業・開発まで一体のチームを1から構築したため、全体のゴールがブレないよう密なコミュニケーションを心がけました。進行過程では課題もありましたが、最終的に高いチームワークを発揮できる組織を作り上げることができました。

開発プロジェクトマネジャー
三田 悠輔

※CDO＝最高デジタル責任者

現場の声とともに進化し続けるMONiPLAT®

バルカーが長年守り続けてきたのは、「液体・ガスを漏らさない」という物理的な安全でした。MONiPLAT®は、その精神を受け継ぎつつ、「オペレーションにおける見えないリスクや非効率を漏らさない」という新たな「安心・安全」の形を提案するものです。このコンセプトは多くのお客さまに支持され、2025年6月時点で1,400顧客以上にご利用いただくまでに成長しました。設備メンテナンスのプラットフォームとしての独自性と共に、無料での利用から入れる使い勝手の良さを評価いただいております。

リリース後も、私たちはお客さまの声に真摯に耳を傾け、営業チームからのフィードバックを迅速に反映。ユーザーインターフェースの改善、パフォーマンス向上、新機能の追加を継続的に行い、サービスを磨き続けています。定期保全（TBM）から状態監視保全（CBM）へとソリューションの幅も広がり、特にCBMではパートナー企業との協業を通じて、センサー情報を活用した より高度な予兆管理サービスもこの秋から提供開始。設備にさまざまなセンサーを接続するだけで、稼働状況をいつでもどこでもクラウドから可視化。直感的なグラフで、異常の予兆もいち早く捉えられます。

今後はAIの活用なども推進し、集めたデータの活用の幅を広げ、より競争力の高いサービスを追求し、飽くなきバージョンアップに取り組んでいきます。

◆ お客さまからの声

住商メタルワン鋼管株式会社

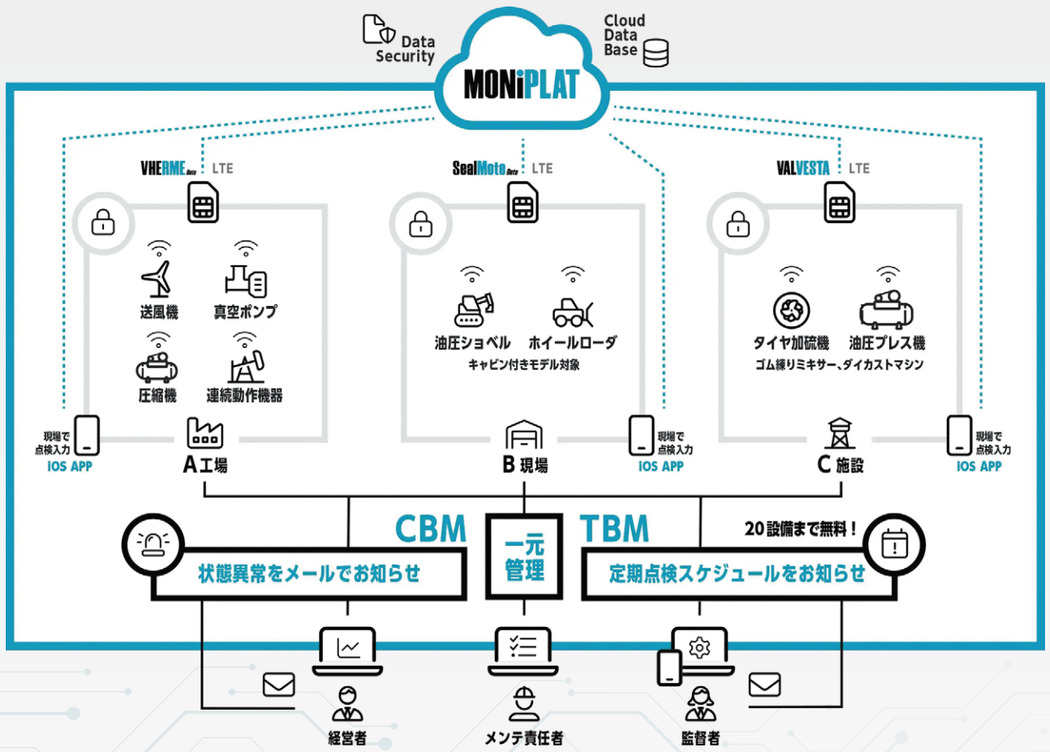
業種
鋼管、継手、バルブ、配管機材などの加工・販売

従来、紙で記録していたトラックの過積載チェックをMONiPLAT®の導入で、デジタル化することができました。リアルタイムのデータ管理により法令違反のリスクを軽減でき、トラックの出発前の確認作業もスムーズに行えるようになりました。管理と現場、どちらの業務負担も軽減され、全体の効率化につながっています。

イソライト工業株式会社

業種
高温用耐火断熱材を製造・販売（窯業メーカー）

点検対象として500を超える設備・機器があり、異常をリアルタイムで把握できないという課題を抱えていました。MONiPLAT®の導入後は点検実施状況と結果がリアルタイムで共有され、異常の早期発見と現場へのフィードバックが即日に行えるようになりました。また、設備登録と点検ルールの登録代行入力サービスもあり、手厚いサポート体制も魅力です。



バルカーのデジタルソリューション・ラインアップ

製造業関連設備のサポート

MONiPLAT®

MONiPLAT®は、スマホやタブレットで設備の定期点検・予防保全管理を行えるプラットフォームです。アナログな紙による点検業務からの脱却を目指した設備管理デジタルサービスの「一元管理」ツールであり、現場管理の基本である定期点検にフォーカスし、中小企業から大企業まで、どのような業種、業態でも導入可能です。初期費用が不要で、20設備までは無料で利用できるのも大きなメリットです。

iPhone/Androidのスマホでご利用いただけるアプリも提供し、点検設備の検索・点検報告書作成やリアルタイムでの承認申請に加え、複雑で煩雑な設備点検のスケジュール管理や点検予定のリマインドも可能となっています。

成長型のサービスであり、定期メンテナンスのTBM（Time Based Maintenance）、状態監視・異常予測のCBM（Condition Based Maintenance）など利用可能な機能も随時加わり、利便性の向上が図られています。

VALQUA SPM

プラントの安定稼働を支えるため、日常の細やかな保全から大規模な定期修理まで、あらゆる保全業務を切れ目なく支援するソリューションです。

日常保全では、タスク管理やドキュメント管理機能により、日々の点検や小修理を効率化し、機器の状態や作業履歴を着実に記録・蓄積します。これにより、小さな気づきも見逃さず、将来の保全計画に活かせる情報を集約します。一方、定期修理では、プロジェクト管理や進捗の見える化といった機能により、複雑な工程を統合的に管理し、計画と実績の精度向上を実現します。

このプラットフォームの核心は、これら日常保全と定期修理のシームレスな連携です。日常業務で得られたデータが大規模定修の計画策定に活用され、逆に定修で得た知見は日常保全の質を高めます。

このように、VALQUA SPM SDMプラットフォームは、情報の一元化とプロセスの標準化を通じて、プラント保全業務全体の最適化と効率化に貢献します。

製品販売ソリューション

QuickValue™ クイックバリュー

Quick Value™は、Webブラウザ上で、ふっ素樹脂加工品の見積もり・受発注を行えるクラウドサービスです。厳しい品質基準と審査をクリアした加工パートナーで構成されるネットワークに連携。サイトにアクセスしたお客さまが図面をアップロードすると、原則2時間以内に各パートナーの見積もりと納期が算出され、図面形状に最適な品質・価格・納期の情報が一括して提供されます。

アップロードされた図面の加工情報は、システム内で解析され、統計・シミュレーションを経て、加工パートナー別に設定された工場・加工データ（設備、加工種別、加工工数、納期）と組み合わされて、製造可否の判断がなされるとともに、見積もりが自動作成される仕組みです。

図面データと加工データをAI・統計解析によるアプローチで組み合わせることにより、人の経験に依存していた部品の調達・見積もり業務を、迅速かつ的確に行えるシステムに集約しました。

素材Pro

素材Proは、お客さまがバルカーの樹脂素材製品をWebで検索すると、システムにより最適なサイズを提案するECソリューションサービスです。お客さまのご要望に合致する最適なサイズの提案に加え、納期・価格も即時に提案することができます。

注文のやりとりについては、メールや電話、FAXなどを使うことなくシステム内で完結でき、見積書・注文書の管理、再発注などの利便性も向上しています。時間がかかる処理の短縮化、見積時の依頼漏れの削減などにより、顧客満足度の向上が図られています。

要望する素材の検索時において完全一致する素材がない場合には代替案の提案を行い、見積時に在庫品がある場合には見積もりを即時に提供するなど、今まで営業が行っていた内容をシステムで実現したことで多種のやりとりによるミスの削減を実現しました。

サステナビリティ マネジメント

バルカーグループは、「サステナビリティ」を重要な経営課題と位置付け、
企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、人類の豊かさと地球環境に貢献するため
「VALQUA Sustainable Action」（バルカー サステナブル アクション）を着実に実行していきます。

バルカーにとってのサステナビリティ

バルカーグループはサステナビリティを【企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること】と考えています。

バルカーグループは、これからも、人類の豊かさと地球環境に貢献するために、事業活動を通してサステナビリティ活動を推進し、「価値の創造と品質の向上」を追求し続けていきます。

サステナビリティ推進体制

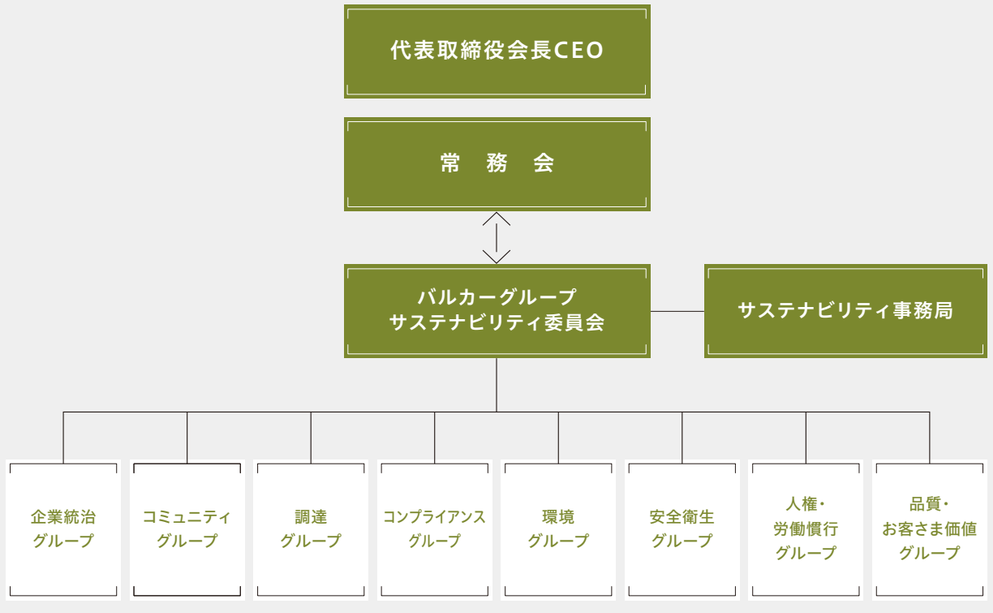
「バルカーグループサステナビリティ委員会」をグループ全体のサステナビリティ活動を議論する重要な会議体として位置付け、バルカーグループの執行役員である委員で構成しています。定例の委員会に加え、必要に応じて適宜開催し、年間活動結果を常務会へ報告しています。

CSRからサステナビリティへ

2022年4月、サステナビリティ活動を加速するため、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更して体制を強化しました。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「VALQUA Sustainable Action」とし、次の活動を進めています。

1. **サステナビリティ経営に資する重要課題の見直し**
2. **重要課題ごとの具体的な目標設定と進捗管理**
3. **サステナビリティレポート等を通じた経営戦略とつながるサステナビリティ活動状況の開示拡充**

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定

バルカーグループは、当社グループに関わる社会的課題項目を抽出し、「ステークホルダーにとっての重要度」と「バルカーグループにとっての重要度」の両面でマテリアリティを特定しました。
それぞれのマテリアリティごとの目標を設定し、取り組んでいます。

サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定プロセス

STEP 1	社会的課題の認識	GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、SDGs（持続可能な開発目標）、RBA行動規範などの国際的な基準・ガイドラインを参考に、社会的課題項目を洗い出しました。
STEP 2	ステークホルダーにとっての重要度の特定	STEP1で洗い出した社会的課題項目に対して、各種評価機関の調査や顧客アンケートなどにおける注目度を指標化し、ステークホルダーにとっての重要度を特定しました。
STEP 3	社会的課題のマッピング・重要課題の特定	STEP1で抽出した社会的課題項目を、STEP2で特定した「ステークホルダーにとっての重要度」と「バルカーグループにとっての重要度」の2つを座標軸としたマトリクス図表へマッピングし、重要度上位の項目を重要課題としました。
STEP 4	重要課題の決定	2019年度、常務会での承認を得て、バルカーグループの重要課題が決定しました。
STEP 5	重要課題のPDCAマネジメント・見直し	2022年4月、経営戦略、事業計画との関連性をより重視した活動とするため重要課題を見直し、同年10月、重要課題2テーマを「紛争鉱物等への対応」「人権の尊重（人権デューデリジェンス含む）」へ変更するなど、人権デューデリジェンスへの取り組みを強化しました。

社会的課題のマッピング

◆ 本業（H&S事業）を通じた社会的課題の解決　● 経営基盤の強化　■ 社会貢献活動

ステークホルダーにとっての重要度 ＼ バルカーグループにとっての重要度			
	● 良好な労使関係づくり	● 事業上の環境負荷物質の低減	● 企業理念の浸透 ● グループグローバルな活動の推進 ● 環境関連法令等の遵守 ● 法令等の遵守 ◆ 環境負荷物質の漏出防止と低減 ● 労働安全衛生
	● ブランド管理 ● 重要課題の設定とサステナビリティマネジメント	● 人材の多様性確保 ● 人権の尊重（人権デューデリジェンス含む） ● 紛争鉱物等への対応	● コーポレート・ガバナンスの強化 ● ステークホルダーとの対話 ● 汚職・贈収賄の防止 ● 人材育成 ◆ 品質の向上と顧客の安全・安心 ■ スポーツ・文化・芸術の振興/地域社会との共生
	■ 生物多様性の保全 ● 公正なマーケティングおよび情報提供 ● 情報セキュリティの強化	● ESG情報の開示と信頼性向上 ● リスクマネジメント（BCM・BCP）	● サプライチェーンマネジメント ● 公正な取引

※各象限内での重要度に違いはない

サステナビリティ重要課題

バルカーグループでは、現在、環境、安全衛生、サプライチェーンマネジメント、人材・人権、顧客満足、コミュニティ、
コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの8つを重点領域とした、16の重要課題を設定し、
重要課題に沿った具体的かつ積極的な取り組みを推進しています。
2022年10月、人権デューデリジェンスを意識した活動とするため、
重要課題2テーマを変更し、「紛争鉱物等への対応」「人権の尊重（人権デューデリジェンス含む）」としました。

SDGsの考え方および方針

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、事業活動を通じてサステナビリティ重要課題に積極的に取り組み、SDGsと持続可能な社会の実現のために貢献していきます。

攻め 本業（H&S事業）を通じた社会的課題解決

・製品やサービスを通じた社会的課題解決への取り組み

守り 経営基盤の強化

・ガバナンスの強化、事業上の環境配慮、サプライチェーンマネジメント、人材育成などの取り組み

社会貢献活動

・ボールルームダンス振興支援
・地域社会への貢献活動

重要課題		何故・何のために	基本的な方針	主な取り組み	貢献するSDGs
環境	1. 環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、社会的課題解決に資する製品や技術を提供する	環境汚染対策など社会的課題解決のための製品、サービスの開発と展開	
	2. 事業上の環境負荷物質の低減	モノづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う	事業上排出される環境負荷物質の低減活動	
安全衛生	3. 労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる	1）安全衛生を推進する人材の育成、リスクアセスメントの有効化など各種労働安全衛生活動の取り組み 2）健康経営を目指し、従業員の心身の健康を増進するための教育と習慣化活動の取り組み	
サプライチェーンマネジメント	4. 紛争鉱物等への対応	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する	CSR調達ガイドラインに基づいた調達活動の啓蒙活動と推進	
人材・人権	5. 人材の多様性確保	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、従業員の多様性、人格、個性を尊重し、能力を発揮しやすい環境をつくる	多様な人材の活躍推進と柔軟な働き方の推進	
	6. 人権の尊重（人権デューデリジェンス含む）	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底するため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行	人権に関するさまざまな国際規範の理解と啓発活動の取り組み	
	7. 人材育成	自社の事業の発展に貢献できる人材を育成するため	行動指針の「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』への強いこだわり」のもと自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人材を育成する	1）バルカーパーソンの育成 2）グループ経営を担うコア人材の開発 3）拠点経営を担うコア人材の開発 4）各事業部・各社での人材の育成	
顧客満足	8. 品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題をともに解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけではなく、国内外のお客さまの安全・安心に貢献する	1）製商品の品質の管理と、安全な使用のための情報提供・サービス 2）お客さまの安全・安心のための製商品、サービスの展開	
コミュニティ	9. スポーツ・文化・芸術の振興、地域社会との共生	スポーツ振興支援や、地域に根差したサステナビリティ活動を通じて、安全・安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う	1）ボールルームダンスの振興支援を通じた社会貢献活動 2）事業所周辺の緑化活動、寄付活動などの社会貢献活動	
コーポレート・ガバナンス	10. 企業理念の浸透	企業理念を中心にしたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心にしたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指す	1）「THE VALQUA WAY」のグループ全体への浸透活動 2）「THE VALQUA WAY」の理解と実践活動、階層別全社大会の開催 3）社内外へのビジョナリー経営の周知活動	
	11. コーポレート・ガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める	グローバルガバナンス体制の強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	12. グループグローバルな活動の推進	グローバル展開の進展により、多様なバックグラウンド・価値観を持つ従業員が増えるなか、グループ全体で一体感を持った事業活動とするため	グループ全体で「THE VALQUA WAY」の行動指針10項の具現化を図り、事業継続性の強化、およびグローバルな社会的課題の解決につなげる	グループ全体でのサステナビリティ活動の強化、および情報開示拡充への取り組み	
	13. ステークホルダーとの対話	建設的な対話による相互理解を深め、それを当社の企業価値の向上につなげるため。あるいは、共通の社会的課題の解決を図るため	さまざまなステークホルダーとの対話を通じて「THE VALQUA WAY」行動指針10項を具現化し、それを自社の企業価値の向上、事業継続性の強化、社会的な課題解決につなげる	さまざまなステークホルダーとの建設的対話の実施	
コンプライアンス	14. 汚職・贈収賄の防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	汚職・贈収賄の防止を含むリスク・コンプライアンス強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	15. 法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図るため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	法令遵守の実効性をさらに高めるための取り組み、開示拡充のための取り組み	
	16. 環境関連法令等の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	環境リスク・コンプライアンス遵守の徹底	

サステナビリティ重要課題

環境

貢献するSDGs

1 環境負荷物質の漏出防止と低減

漏出防止と低減のための取り組み

老朽化設備に対する漏出リスク低減の取り組み

近年、国内プラント設備の老朽化が問題視され、なかには半数以上が稼働年数50年以上を超える設備構成となっているなどの声を耳にします。プラントの連続運転期間の延長等で定期メンテナンス機会が減り、老朽化設備の漏出リスクは高まる傾向です。一度漏出が発生しますと、プラント作業員の人的被害をはじめ、漏れた物質によっては近隣住民への影響や環境汚染につながることも懸念され、漏出リスクの低減に貢献することは当社として重要な取り組みと捉えています。

当社は長年にわたり漏出を防ぐシール製品を提供し、数多くのプラントの安全操業に貢献してきました。現在では、2023年4月発表の“安全を漏らすな”のコーポレートスローガンのもと、シール製品のみならず、お客さま設備のリークゼロを目標に漏出リスク低減を図るサービス開発を進めています。そして本年度、老朽化設備のフランジ起因の漏出リスク低減につながる取り組みとして、フランジの健全性診断サービス“フランジカルテ”を開発、上市しました。

現状、フランジの健全性確認は、プラント作業員により目視や触診などの感覚で行われることが多く、作業員の経験や技量等の人為的なばらつきもあり、漏出リスクとなっているケースもあります。他方、専門業者によるひずみ計測という手法は、測定に時間を要するためメンテナンス工程を圧迫すること、対応可能な業者が限られる、などの理由で実施ケースが少ないのが実情です。さらに、目視、触診などではダメージ評価に必要なフランジの径方向ひずみや傷の状態は測定できず、フランジ起因の漏出リスク低減は果たせていません。今回上市したフランジカルテは、3Dスキャナを用い、フランジに生じている周方向/径方向ひずみや傷などのダメージを測定、分析することで非属人的かつ定量的な把握ができるサービスです。フランジカルテでは、3Dスキャナで取得する点群データを当社の独自開発ソフトを用いることで、ひずみや傷などの異常部がフランジのどこに生じているかをビジュアルで確認ができ、異常部を個々にグラフ化し閾値比較による良否判断を行った結果をレポートとして提供します。

当サービスの活用で、お客さまは設備の健全性確認を適時に行うことが可能になり、適正な修繕につなげ、漏出を低減させることができます。当社のコア技術であるシールエンジニアリングをベースに、リークゼロに向けたさまざまな取り組みを加速し、環境負荷物質の漏出防止と低減などの社会的課題の解決に引き続き貢献していきます。

水素社会への取り組み

バルカーグループでは次世代エネルギーとして期待される水素市場向けに、エラストマー製シール材「BLISTANCE®」を発売し、2020年より継続した機能改善に取り組んでいます。「BLISTANCE®」はブリスター現象※を発生させない画期的なエラストマー製品です。ブリスターが発生すると、シール材が破壊され、水素ガスが漏出する危険性があります。

2023年には極低温・急減圧の過酷な条件下での使用が想定される燃料電池自動車（FCV）や、水素貯蔵タンク、エンジン回りの配管使用の適用性を想定した低温環境～高温環境まで広くカバーした製品シリーズの開発を完了。今後も当社グループの強みである材料配合、シール設計の技術で、次世代ニーズに応え、脱炭素社会に向けて貢献していきます。

※ブリスター現象：高温・高圧環境下で水素がエラストマー素材に浸透し、急減圧で水素が膨張してゴム素材を破裂させる現象

2 事業上の環境負荷物質の低減

気候変動への対応「TCFD提言に基づく情報開示」

株式会社バルカーは、2021年5月に「気候関連財務情報開示タスクフォース」（TCFD※）提言への賛同を表明するとともに、提言の推進を目的に設立された「TCFDコンソーシアム」に加入しました。バルカーグループでは企業理念「THE VALQUA WAY」に基づくビジョナリー経営を推進し、社員の一人ひとりが「安全・衛生・環境は人類共通の重要テーマの1つである」ことを強く意識した企業活動を実践しています。また、創業100周年（2027年）を区切りとする長期経営目標では、ありたい企業像として「未来と未知に挑むチャレンジングな企業－人類の豊かさと地球環境に貢献するために－」を掲げ、より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献できる企業となることを目指しています。

TCFD提言に基づく情報開示

https://www.valqua.co.jp/social/environment/

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

※TCFDについて

https://www.fsb-tcfd.org
G20の要請を受け、主要国の金融関連省庁および中央銀行より構成された金融安定理事会（FSB）により、2015年12月に設立されたタスクフォースで、2017年6月に気候関連の財務情報開示に関する提言を公表しました。現在、世界中の金融機関や企業、政府などがTCFDの提言に賛同しています。

2024年度事業活動に伴う環境負荷

バルカーグループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO_2の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に収集し一元管理するため、サステナビリティ情報収集システムを導入し、適正な温室効果ガス係数を用いて算定、開示しています。

マテリアルフロー

INPUT

エネルギー

電力	34,317MWh
うち太陽光	42MWh
A重油	139,200L
LPG	50,584m³
天然ガス	118,165kg
都市ガス	16,270m³
灯油	125,173L
軽油	18,149L
ガソリン	37,707L

合計 148,358GJ

水の使用

上水	70,799m³
工業用水 他	299,681m³

合計 370,480m³

VALQUA Group 事業活動

OUTPUT

CO_2排出量

生産関連	16,844t
その他	869t

合計 17,713t

廃棄物

廃プラスチック類	368t
汚泥	111t
紙くず	53t
他（廃酸、廃アルカリ、廃油、木くず、繊維くず、金属くず、燃え殻）	103t
化学物質※21種類	164,637kg

合計 635t

※化学物質：PRTR法の届出対象物質に加え、引火性液体・有機溶剤・水質汚濁特定物質など把握対象範囲を拡大

対象：バルカーグループの国内外事業所（一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい16拠点を除く）　集計期間：2024年3月～2025年3月

環境

主要な環境負荷の推移

温室効果ガス排出量（直接排出）

2024年度は2023年度に比べて絶対量で338t削減しましたが、売上高原単位では0.8%増加しました。

内訳は、温度調節管理によるエネルギー効率向上や老朽化設備の更新の効果で561tの削減を実現した一方、生産増強に伴う新工場設立などの影響により223t増加となりました。

今後も引き続き、生産効率のさらなる向上やエネルギー使用の最適化を進め、排出量削減に取り組んでいきます。

温室効果ガス排出量（間接排出）

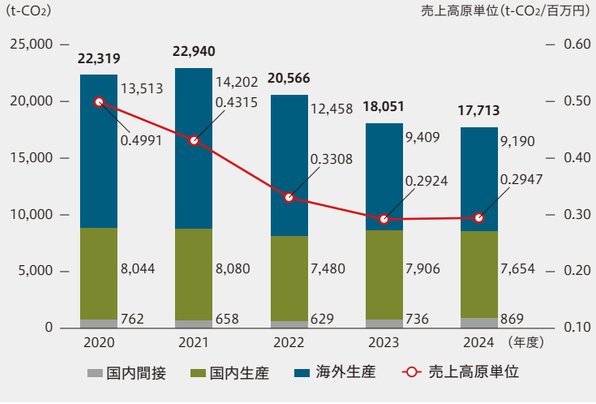
2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、11年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

スコープ3
（2024年度データ掲載予定）
https://www.valqua.co.jp/social/environment/

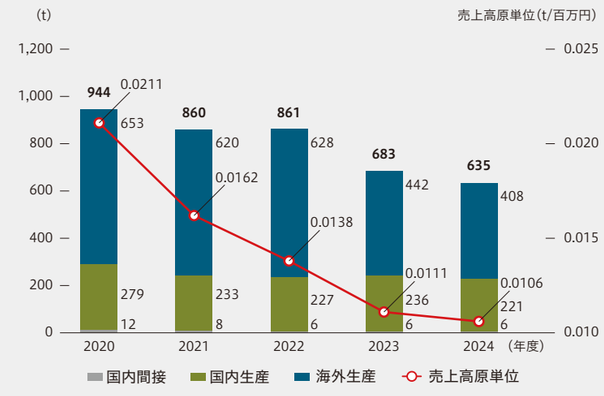
廃棄物最終処分量

2024年度は2023年度に比べて絶対量で48tの排出量減となり、売上高原単位で5%の削減となりました。内訳は、合理化・原価低減活動による不良率改善や歩留まり向上の効果で23t削減、半導体市場の回復遅れによる生産調整で25t減少しました。

温室効果ガス排出量推移（国内+海外）



廃棄物最終処分量推移（国内+海外）



※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は各国の情報提供が充実してきたことから2020年度より拠点ごとの排出係数を調査し算定しています。

安全衛生

貢献するSDGs

3 労働安全衛生

安全職場と心身の健康

安全衛生活動の推進役となる人材の育成

安全で健康的な職場の実現に向けて、能動的に行動する安全衛生関連資格の取得者、また、職場の潜在的なリスクを周知し排除する活動を推進するリーダーの育成に取り組んでいます。

安全衛生推進体制の体系化と有効化

ステークホルダーの期待に応えるため、世界標準に準拠し、危険源を特定して潜在的リスクを排除すること、また、ウェルビーイングにつながるメンタル・フィジカルケアによる従業員の心身の健康保持増進に努めています。

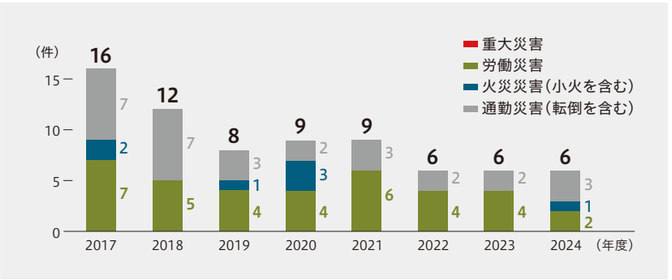
心と体の健康管理
https://www.valqua.co.jp/social/safety_health/

安全衛生推進活動

バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、安全意識の向上を図っています。また、7月にはSHE（安全、健康、環境）Weekを設定し、強化期間として「全員参加のSHE活動」に向けたグループでの大会の開催や各拠点での自主的な活動を展開しています。

グループ全体での災害発生件数



積極的な安全衛生推進活動

事業変化、国・地域ごとに異なる法規制の改正、自然災害の激甚化などに伴う安全衛生にかかわるリスクの変化に先手で対応し、安全な職場環境の維持に努めています。そして、健康経営の視点からも気候変動や感染症、ストレスなど健康リスクに備えた危機管理の強化も進めています。また、ダンスレッスンとストレッチや年に2回の健康チャレンジ60日間ウォーキング大会なども実施しており、この取り組みはスポーツ庁が展開している社員の健康増進のためにスポーツ活動の支援や促進を積極的に取り組んでいる企業を認定する制度で「スポーツエールカンパニー2025」に認定されました。今後も健康増進の取り組みを積極的に進めていきます。

安全衛生活動状況

左）バルカーベトナム：各活動拠点での安全衛生祈願祭
中）バルカー：ダンスレッスンとストレッチで健康増進
右）台湾バルカー：安全・衛生・環境に関するクイズ早押大会で楽しく活動の本質を学ぶ

サプライチェーンマネジメント

貢献するSDGs

4 紛争鉱物等への対応

CSR調達の推進

CSR調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

紛争鉱物※等への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応等、人権リスクへの対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。また、2022年度には「人権デューデリジェンス」を意識した活動にするため、紛争鉱物に「コバルト」「マイカ」を追加しています。対象鉱物の拡大に向けた動きが本格化していることもあり、今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に加担しない取り組みを強化していきます。

CSR調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2020年度からは、コンプライアンス遵守の評価を厳格化するため、アンケートの設問を今までの20問から、コーポレート・ガバナンス、サプライチェーン、環境などの設問を増やした30問に拡充し、さらに、調査対象をこれまで実施してきた主要なサプライヤー以外のサプライヤーまで範囲を広げました。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケートの内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働への取り組みを行っていきます。

調達基本方針、バルカーグループ CSR調達ガイドライン
https://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/

※紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

CSR調達アンケートの確認項目
（2022年度から紛争鉱物の対象に「コバルト」「マイカ」を追加。）

項目	取り組み内容
CSR	● 法令遵守・違法行為の予防 ● ＣＳＲ推進　● 取引先への展開
コーポレート・ガバナンス	● 内部統制　● 内部通報 ● 適切な輸出入
公正取引	● 腐敗（政治献金・寄付、贈収賄等）防止 ● 優越的地位の濫用防止 ● 不適切な利益の供与や受領の防止
情報・セキュリティー	● 知的財産の管理 ● 個人情報や、顧客の機密情報の管理 ● コンピューターネットワークへの攻撃に対する防御
サプライチェーン	● 法規制、社会的規範、業界規範および規格の遵守 ● 紛争鉱物（紛争地域産のタンタル、すず、タングステン、金とその派生物、コバルト、マイカ）の使用
人権	● 人権の尊重　● 差別の禁止
労働	● 採用時の差別の禁止 ● 従業員への平等な機会の提供 ● 禁止事項の遵守 ● 労働時間、休暇、有給休暇の公正な適用
環境	● 法令等で指定された化学物質の管理 ● 排水・汚泥・排気の管理 ● 資源の持続可能で効率的な利用 ● 温室効果ガスの排出量削減 ● グリーン調達および廃棄物削減
安全衛生	● 安全で健康に働ける環境 ● 作業者の安全 ● 災害への備え ● 災害・事故発生時の体制
BCP	● 事業継続計画への取り組み

人材・人権

貢献するSDGs

5 人材の多様性確保

職場環境づくり・各種制度

ライフイベントとキャリアを両立できる柔軟な働き方の実現

当社では、社員が育児・介護などのライフイベントと仕事を両立し、やりがいと生きがいを持って働けるようWell-being経営を追求しています。フレックス勤務制度や1時間単位・半日単位の有給休暇取得制度、リモートワーク勤務、副業制度に加え、産休後の復職支援を目的とした企業主導型保育、介護相談サポート・団体保険の導入や介護を理由とした転勤猶予制度などの開始など、新たな仕組みづくりを進めています。今後も社員一人ひとりが自らの可能性を最大限発揮できる環境づくりに取り組んでまいります。

柔軟な働き方を支援する制度

- 副業（短日勤務制度）
- リモートワーク制度（リモートワーク手当含む）
- 介護休業「連続取得期間は最長3年」
- 1時間単位の有給休暇取得制度
- 子どものバースデー休暇
- 育児のための有給特別休暇
- 育児短時間勤務「子どもが小学校3年生に達するまで」
- 育児休業「2歳6カ月に達する日まで」
- パパ育休制度
- フレックスタイム制度（コアタイム13:00～15:00）
- 介護短時間勤務
- キャリアリターン制度

（2025年6月30日現在）

エンゲージメントとウェルビーイング

当社では2024年よりCWO※を設け、ステークホルダーのウェルビーイング向上を促進しています。2020年からは毎年エンゲージメント調査を行い、調査結果を基にグループ全体および部門ごとに対応策を検討・実施することで、生産性高く、幸せに働ける職場づくりを進めています。自己申告など、上長と部下との対話を促進することで、人格と個性を尊重しながら、理念経営に基づく健全な組織風土の醸成を行っています。

※CWO＝最高ウェルビーイング責任者

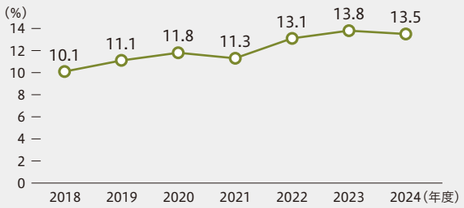
性別や年齢を問わず活躍できる環境づくり

当社では性別や年齢、経歴に関係なく人材を登用し、多様な視点を取り入れ、さらなるイノベーションの推進を図っています。

入社年数や年齢にとらわれず、スピーディーな管理職への昇進を可能にする昇格試験の「飛び級受験」制度や、60歳を超えても、やる気・能力・スキルがある社員の継続的な役職登用ができるセカンドキャリア制度など、人事制度を刷新し、適所適材で人材の活躍を支援しています。

女性管理職比率

目標：2027年度までに15%



人材・人権

6 人権の尊重（人権デューデリジェンス含む）

人権の尊重

バルカーグループでは、2017年3月に、国連グローバル・コンパクトも踏まえながら「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。2022年9月に経済産業省が「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を公表するなど、人権尊重に関する社会的要請が強まるなか、当社でも、同方針を2023年8月に改定しました。

本方針に基づき、毎年グループ各社や調達先などに人権に関する調査を行い、グループ全体の人権基本方針の周知と理解度の確認、および人権に関する取り組み状況を確認しています。この結果を分析し、各グループ会社が自主的に人権問題の把握や防止・対処ができるようにサポートしながら、人権に対するさらなる意識向上に向けアクションの推進を図ります。

また、バルカーグループではコンプライアンスハンドブックを展開し、グループ各社でも勉強会や外部トレーニングに参加するなど、人権意識を維持向上するための自主的な取り組みを行っています。

バルカーグループ
コンプライアンス
ハンドブック

バルカーグループ
人権基本方針

https://www.valqua.co.jp/social/human_resources/

7 人材育成

人材育成

バルカーグループでは、基本理念である「Value & Quality（価値の創造と品質の向上）」に基づき、「正しいこと」にコミットしながら事業を推進することを目指しています。そのためにも、社員一人ひとりが自らなすべきことを考え、企業価値向上に向けてリーダーシップを発揮するための人づくりに取り組み、ジョブローテーションやOJT、その他さまざまな研修プログラムを提供しています。

全社員が自ら必要な学びを選択できる自己選択型研修プログラムの他、昇格者やマネジャーなどの階層別研修、新工場の立ち上げに向けグローバル人材の技能研修、次世代経営層の育成のための選抜研修を実施し、昨今の激変する世界情勢においても、未来を切り開くことを諦めないチャレンジ精神とポジティブに物事に立ち向かう姿勢を育み、健全で持続的な成長を支え、各自の強みを最大限に発揮し「人類の豊かさと地球環境」に貢献していく人材の輩出に力を入れています。

目標管理と人事評価の仕組み

社員の成長を促し、組織力を向上させるためには目標管理と人事評価の効果的な運用が必須と考えています。バルカーでは会社・部門の戦略を基に、社員個別の目標を設定し、評価を通じて社員の課題や改善点を明確にして次の目標に活かしていくことで、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。

求める人材像

- 企業理念「THE VALQUA WAY」に共感できる人
- グローバルな視点で判断や行動のできる人
- 学習と成長への強いこだわりを持ち、自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人
- スピーディーな判断力や行動力を有し、時代の変化・変革を先取りして果敢にチャレンジできる人

多種多様な研修プログラム

グローバル化に向けた人材育成	グループ経営を担う人材の育成
階層別研修	職種別研修
自己啓発	OJT

顧客満足

貢献するSDGs

8 品質の向上と顧客の安全・安心

品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。品質保証部を中心に、国内外の生産・販売関係会社を管轄する各事業本部や生産調達本部など品質関連部門責任者で構成し、決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づき、組織と従業員一人ひとりが具体的目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守し、お客さまの求めに合致した品質を担保、安全な製品とサービスを提供しています。

プラントの安全・安心のための シールトレーニングの拡充

バルカーグループでは、シール製品の提供だけにとどまらず、その適切な取り扱いにより危険流体の漏出事故を少しでも減らせるように、シールトレーニングサービスによる安全・安心への貢献に努めてきました。また遠隔地、大人数でも受講したいというご要望から、モバイル型シールトレーニング、トレーニング設備のレンタル等、お客さまのニーズに合わせたラインアップも拡充し、受講件数が増加しています。今後もプラント事故の撲滅を目標に、サービス拡充を継続させ、お客さまの安全・安心に貢献していきます。

製造業が直面する課題と変化への対応

製造業では、社会情勢や事業環境の変化に伴い、人手不足や設備の経年劣化といった保守保全の課題が顕在化し、安全・安心を効率的かつ統合的に実現したいというニーズが高まっています。また、競争力維持のため、データ活用による設備稼働の最適化やDX推進が急務となっています。これまでバルカーグループではシールエンジニアリングのパイオニアとしてガスや液体等の漏出を防ぐ製品を提供し、多くの事業者様の安全操業の一助となるために尽力してきましたが、さらなる安全・安心を提供するためにデジタル技術を活用した設備管理システムの開発に取り組んでいます。

設備点検DXプラットフォーム「MONiPLAT® 」

製造設備の安全な運用・管理には定期的な点検や保守作業が不可欠ですが、従来の紙のチェックシートによる管理では記録ミスや転記ミス、確認作業の煩雑さといった課題がありました。バルカーグループの設備点検プラットフォーム「MONiPLAT®」は、スマートデバイスを活用したアプリケーションベースの点検で、作業効率化と管理レベル向上を実現します。クラウド上でデータを一元管理することで、複数拠点の点検情報をリアルタイムで共有し、設備の状態を統合的に把握可能です。また、メール通知機能により点検漏れを防ぎ、確実な点検を支援するとともに、設備の長寿命化にも貢献します。今後はアナログメーターデジタル検針やCBMソリューションの追加など、設備管理全体を効率化するオプションを拡充し、遠隔監視の事業化を進めながら、設備管理の進化と業務効率化に寄与するソリューションを提供していきます。

品質方針、品質マネジメントシステム
https://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/

バルカー技術誌「バルカーテクノロジーニュース」
https://www.valqua.co.jp/tech/technical/

現代ガスケット概論
https://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/

ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の"ガスケット解説書"

MONiPLAT®
https://moniplat.valqua.co.jp/

※MONiPLAT®は当社ホームページより無料にてご利用開始が可能です。

未来と未知に挑む／特集 3

「THE VALQUA WAY」をグローバルに実現

バルカー技能グランプリ

2024年からスタートした「バルカー技能グランプリ」は、ワールドワイドに展開するバルカーグループの生産拠点から選ばれた優秀な技能者が、それぞれの専門分野で競技に臨むイベントです。イベントの準備段階から実際の競技、そしてアフターフォローまで含めた取り組み全体を通して、技能の伝承・向上・共有を進め、高い技能レベルを持つ人材育成を図っています。

従業員一人ひとりの成長を支えるために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY（T.V.W.）」を基盤に、社会への貢献と持続可能な成長を目指しています。そのための取り組みのなかで「人材育成」を特に重視して推進しています。「バルカー技能グランプリ」は人材育成の一環として開催し、従業員一人ひとりの成長を支える取り組みと位置付け、従業員が日々の業務で培った技能を競い合い、相互に刺激し合いながら成長する場と機会を提供します。

バルカーグループでは、技術の進化が進むなかでも、それを支え、さらに発展させるのは「人」であるという信念のもと、技能の伝承と人材育成を推進しています。またグループが推進するWell-being経営は、従業員の学びと挑戦を支援し、人格と個性を尊重する環境を整えることにより、企業の成長を促進することを目指しています。

「バルカー技能グランプリ」を通じて、こうした理念の実践と現場力の向上をともに図り、未来を切り拓く人材の育成に努めていきます。

バルカー技能グランプリ2024概略

第1回「バルカー技能グランプリ」は、2024年5月16日、台湾の高雄市の台湾バルカー国際で開催されました。海外拠点における生産部門を主体とした大規模イベントとしては、バルカーグループ初となるものです。日本・韓国・台湾・米国・タイ・ベトナムの6つの国と地域で選ばれた技能者28名が参加し、以下の4種目が実施されました。

特殊技能	高機能シール外観検査競技	半導体市場向け高機能シール製品の不良発見能力と不良事象の検出力を競う。
特殊技能	PFA溶接競技	ライニングタンク製造工程で、タンク内のシートをPFA溶接する作業の品質とスピードを競う。
一般技能	ボルト締め競技	工場配管の継ぎ手部分のボルトを、所定の本数を決められた圧力まで正確かつ迅速に締めるスキルを競う。
一般技能	フォークリフト運転競技	資格取得者が所定のコースを安全・正確・効率的に運搬する運転技能を競う。

大会の進行状況は、リアルタイムで参加国・地域にWeb配信されました。世界各地で高い関心を集め、緊張感と高揚感が入り混じるなか、各競技が熱く繰り広げられていきました。この大会を通じて、技能者同士の交流が深まり、グループの一体感はより強化されました。バルカーグループの推進するWell-being経営の実践活動として、従業員のエンゲージメント向上に寄与した意義深い大会となり、経営陣、従業員ともに技能伝承の重要性を再認識する機会となりました。

会社名	主な製品	市場	出場競技			
			高機能シール外観検査競技	PFA溶接競技	ボルト締め競技	フォークリフト運転競技
バルカーシールソリューションズ	高機能シール製品	半導体製造産業	●		●	
九州バルカー	ふっ素エラストマー	半導体製造産業	●		●	●
バルカーミカワフロンテック	ふっ素樹脂ライニング製品／メタル・セミメタルガスケット	半導体製造産業／電気・電子機器産業		●	●	●
バルカーコリア	高機能シール製品	半導体製造産業	●		●	●
台湾バルカー国際	ふっ素樹脂ライニング製品	半導体製造産業		●	●	●
バルカーNGC	ふっ素樹脂ライニング製品	半導体製造産業		●	●	●
タイバルカー	ジョイントシート	発電プラント産業			●	●
バルカーベトナム	ふっ素系高機能シート うず巻形ガスケット	発電プラント産業			●	●

バルカー技能グランプリ2024レポート

台湾バルカー国際では、「バルカー技能グランプリ」の成功へ向けて、台湾の人たちの柔軟・寛容で熱意あふれる気質により、従業員一丸となって世界各国から予選会を勝ち抜いてきた選手28名をはじめとする参加者の歓待に取り組みました。皆さまに気持ちよく、安全に、かつ安心して会場に来てもらい、良い思い出を作って帰国してもらえるように努めました。

現地の大会スタッフは、台湾入りした日本のスタッフとチームを組んで協力しながら、約半年間にわたり、大会の準備を進めました。大会本番までには、さまざまな困難もありました。特に、Web配信を担当するスタッフに体調不良者が生じ、急遽スタッフの再配置を行うなどの事態も起きましたが台湾、日本、双方のスタッフの連携によって困難を乗り越えることができ、大会は結果的に滞りなく、順調に進行できました。今回のイベント開催を通して、台湾バルカー国際は、一つひとつ課題を克服していく経験を積むことができ、Well-being経営の一環として、組織の活性とエンゲージメントの向上を実現できたと感じています。日本のスタッフとの協力も、お互いの良い部分を出し合うことができ、異文化交流による成長を実感できました。

全体的にはまだまだ課題も多く、くじけそうにもなりましたが、参加者からの「ありがとう」の言葉に救われ、達成感を感じ、今は機会をいただけたことに深く感謝しています。

台湾運営スタッフ
課長 傅 宗穎　副総経理 黄 威凱　副部長 呂 政賢

入賞者のコメント 高機能シール外観検査競技

李 柱昊 さん
バルカーコリア
品質管理課検査班

自分はもともとおとなしいタイプですが、グランプリに参加してからは、積極的に発言したり、能動的に取り組むことが多くなり、同僚とのコミュニケーションも増えました。またグランプリの場では、海外のグループ社員と知り合えて、楽しく過ごせました。機会があればまた参加したいと思っています。

入賞者のコメント PFA溶接競技

張 佑源 さん
台湾バルカー 国際製造部
ライニング製造課第三係（係長）

技能グランプリに出場して、仕事に対して自信と責任感が増したと実感しています。後輩の指導やチーム内のフォローアップにも積極的に取り組めるようになりました。2025年4月にはライニング製造係長への昇進も果たすことができました。今後も技術研鑽と若手育成を推進し、模範的なリーダーになれるように努めます。

COLUMN

バルカー技能グランプリ事務局長
常務執行役員 生産調達本部長 伏屋 克俊

技能グランプリは、特殊技能競技と一般技能競技の2分野に分かれて、世界各国・地域の選りすぐりの技能者が、日々の業務で培ってきた技能を競う内容となっています。従業員が自身の努力により伸ばしてきた能力を発揮し、高い評価を得られる場になるとともに、各拠点で保有する優秀な技能や才能をグループ全体で共有することを可能としています。一方、本大会では、グローバルに展開するバルカーグループの各生産拠点で予選を勝ち抜いた代表者が一堂に集結します。参加者同士が交流し、相互に刺激し合うことで、拠点ごとの技術レベルの違いを認識しながら、Well-being経営や技能のさらなる向上を追求する、新たなきっかけとなることも期待されます。特にPFA（ふっ素樹脂）溶接技能競技や高機能シール外観検査技能競技といった特殊技能の伝承と発展は、技術革新と人材育成を進める上での重要課題であり、効率化や生産能力増強を図るための必須項目です。本大会を通じた人材育成が、こうした課題へのソリューションとなり、激変する事業環境のなかでも本質を追求し、「想像」と「創造」により企業価値を示せる「人」の育成につながると確信しています。

コミュニティ

貢献するSDGs

9

スポーツ・文化・芸術の振興、社員の心と身体の健康促進、地域社会との共生

スポーツ振興支援

「ショーダンス」振興の確かな成果と未来に向けた取り組み

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは、年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる生涯スポーツである「ボールルームダンス」の普及・振興を支援しています。

2024年度は、新たなダンスジャンルへの支援として、日本国際バレエ協会が主催する「日本国際バレエフェスティバル（12月開催）」の協賛を実施しました。ダンス・音楽・美術からなる総合芸術としてのバレエの支援を行うことで多くの才能を応援するとともに、舞踊の普及や芸術文化の振興にも尽力してまいります。

また、毎年11月に開催される国内最高峰の社交ダンス競技会「バルカーカップ」は、当社グループとテレビ東京が共催する『ショーダンス』をメインとした「バルカーカップ ジャパンオープンショーダンス選手権」として、第10回の記念大会を華やかに開催しました。よりストーリー性に特化し、芸術性に富んだショーダンスの確かな可能性に、多くの観客が沸きました。

2024バルカーカップ
ジャパンオープン
ショーダンス選手権

文化・芸術の振興

日本全国の子どもたちを劇場に招待し、演劇の感動を届けることを掲げた「こころの劇場」（主催：一般財団法人舞台芸術センター・劇団四季/後援 文化庁）は、日本の未来を担う子どもたちが芸術に触れて心を豊かにする機会を創出し、より良い社会の実現を目指すプロジェクトです。

バルカーグループはこの取り組みに賛同し、当社の生産拠点または販売拠点があり、ゆかりの深い愛知県・大阪府・奈良県・福岡県公演に協賛いたしました。

社員の心と身体の健康促進

「ボールルームダンス」振興と社員の心と身体の健康促進のため、国内外の拠点にて基本毎週1回、昼休憩時に社内ダンス教室を開講しています。

本社では、健康体操を取り入れて、より参加しやすいダンス教室づくりに努めています。また、毎年のクリスマスイベント時のダンス発表に向けて積極的に練習を重ねていますが、今年は新たな試みとして各国・地域のダンスチーム対決を行い、例年に増して盛り上がりました。

台湾やベトナムなど海外拠点においても、心のリフレッシュや運動不足解消のため、楽しみながらボールルームダンスのレッスンを行っています。

本社ダンス教室メンバーによるダンス発表

地域社会との共生

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」の行動指針の「地域社会との共生」に基づき、世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのかを常に考え、毎年「地域社会に対する感謝の日」を設け、地域社会に根差したボランティア活動を実施しています。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場の従業員とその家族が参加しています。

2024年度は、各拠点で工夫を凝らしながら、地域社会への貢献につながるさまざまなボランティア活動を行いました。

タイバルカー　Clean・Our・Beach活動

タイバルカーでは、初めて実施した社員旅行で「ホアヒン・ビーチ」を訪問。従業員と家族が一緒に楽しい時間を過ごしましたが、旅行だけにとどまらず、THE VALQUA WAYの行動指針の一つである「地域社会との共生」に基づき、「この美しいホアヒン・ビーチを次世代に」という願いを込めて清掃活動を行いました。

次世代のために美しいビーチにしましょう！

バルカーベトナム　幼稚園の清掃活動と花植え作業

いつも地域社会に支えていただいていることへの感謝を込め、明るく楽しい雰囲気のなか幼稚園の清掃と花植え作業を行いました。

幼稚園の先生や職員からたくさんの喜びや感謝の言葉をいただき、私たちは地域社会の一員であるという責任感を再認識するとともに、愛される企業の模範となることができました。

従業員と社員の子どもたち164名が参加しました

子どもたちが笑顔で楽しんだ花植え作業

コーポレート・ガバナンス

貢献するSDGs

10 企業理念の浸透

「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

「OUR VALQUA WAY」理解と実践活動のスタート

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を、羅針盤および行動規範として、日々の活動の基盤としています。バルカーグループの従業員一人ひとりが、自らの業務にそのマインドを落とし込み、自分ごととして問題意識を持ち、業務の改善・改革につなげる活動を行っています。

また、「THE VALQUA WAY」をより浸透させるため、1年を通しての活動を共有する場として、実践発表会を毎年実施しています。

この実践発表会は、いかに「THE VALQUA WAY」を自身の業務に落とし込めたかを発表する場です。国内外・階層別に予選会を行い、毎年1月に予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催しており、2024年度で17回目を迎えました。

2024年度には、中期経営計画“New Frontier 2026”（NF2026）のもと、ビジョナリー経営のさらなる推進を目指し、「OUR VALQUA WAY」として、信頼をベースに、＜強み＝力＞を意識・尊重した集団・チームの活動報告の場として、1回目となる発表会を実施しました。

また、「健全で持続的な成長」をさらに確実なものにするためには、全グループ社員へ「THE VALQUA WAY」を深く浸透させることが必要不可欠であると考えた瀧澤CEOは、自ら各地へ赴き、管理職を対象に「CEO THE VALQUA WAY 浸透推進フォーラム」を2019年度より開催しています。2024年度はベトナムにて開催しました。

バルカーグループでは、社名にも込められている基本理念である「Value & Quality（価値の創造と品質の向上）」を実現すべく、従業員一人ひとりの強みにフォーカスした「THE VALQUA WAY」の全社大会を通じて相互理解を推進しています。さらに、昨今の未曽有の厳しい環境で得られた学びを基盤に、人類の豊かさと地球環境に貢献する「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を目指しています。この目標を達成するため、未来を切り開くチャレンジ精神と、ポジティブに物事に立ち向かう姿勢を育み、幸せと健全な成長を支えるべく、各自の強みを最大限に発揮した世界最高のチームと、社員一人ひとりが自信を持てる組織づくりを目指しています。その一環として、「OUR VALQUA WAY」というチームを意識した活動にも力を入れています。

今後もバルカーグループ全体で、ひたむきかつ覚悟を持ってビジョナリー経営の推進に取り組んでいきます。

上）「THE VALQUA WAY」全社大会 発表風景
一般職部門 第1席：バルカーシールソリューションズ 富永 啓介

中）2024年度「THE VALQUA WAY」全社大会表彰式

下）2024年10月「CEO THE VALQUA WAY 浸透推進フォーラム」の様子
（開催地ベトナム）

11 コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、弁護士1名、公認会計士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行を監査し、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

さらに、取締役の指名・報酬等に係る手続きの公平性・透明性・客観性を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的として、指名報酬諮問委員会を設置しています。本委員会は、取締役会の決議によって選定された取締役により構成し、その過半数は独立社外取締役としています。

内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

取締役会・監査役会の構成（2025年6月30日現在）

取締役	6名（男性5名、女性1名） うち社外取締役3名（男性2名、女性1名）
監査役	3名（男性3名） うち社外監査役2名（男性2名）

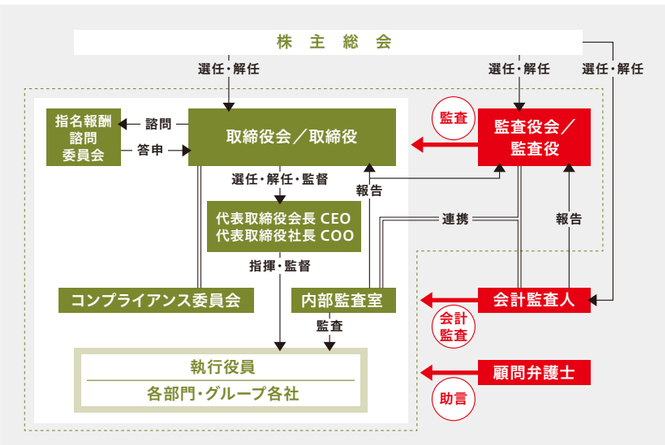
内部統制システム

業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築し、内部統制システムの整備・推進に努めています。「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、外部・内部環境の変化に応じて見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規程・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示し、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コーポレート・ガバナンス

12 グループグローバルな活動の推進

安全職場と心身の健康

サステナビリティ活動の推進

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」「スポーツ振興支援」「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社が一体となって取り組みを行ってきました。

2021年からは、攻めである「本業（H&S）事業を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs貢献への取り組みを強化しています。

また、人権課題への社会的な取り組み要請により、バルカーグループ人権基本方針を改定し、人権デューデリジェンスの構築と実施の一環として調達先に対する調査対象先と調査方法を決定し、実施しています。今後もさまざまな社会的課題の解決に向けて、グループ一体となったサステナビリティ活動を推進し、その開示にも努めていきます。

SHE活動の推進

バルカーグループでは、安全・健康・環境の活動を一元化し、SHE活動としてCEOを委員長とするSHE委員会のもと、国内外のビジネス拠点のSHE推進会議が連携し、一体となって安全職場づくり・従業員の健康増進・環境保全活動に取り組んでいます。この活動では各拠点間の交流会でそれぞれのベストプラクティスを発表し合い、活動状況を相互に理解して自らの活動にも反映するなど、グループ内の従業員が一体感を持って各拠点の風土に合った活動を展開しています。

SHE推進体制図

https://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/

13 ステークホルダーとの対話

バルカーグループは、「THE VALQUA WAY」のもと、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図るとともに、健全で持続的な成長の実現と企業価値の向上を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーへの対応
取引先（調達先）	公平・公正、法令遵守、環境配慮、相互信頼を基本とした、CSR調達を推進しています。
行政・自治体	法令遵守と適切な情報開示を行っています。
地域社会	地域社会、ひいてはグローバル社会との共生を目指し、環境負荷の低減、社会貢献活動に取り組んでいます。

コンプライアンス

貢献するSDGs

14 汚職・贈収賄の防止

リスクマネジメント

基本的な考え方

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

バルカーグループは、選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得による事業基盤の再構築を目指すとともに、組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化について、継続的に取り組んでいます。

リスク管理体制

バルカーグループはリスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

大規模災害など事業の継続を脅かす事象が発生した場合に、グループの統制をとり迅速に対応するため、2020年に事業継続計画（BCP）マニュアルを策定し、運用を開始しています。

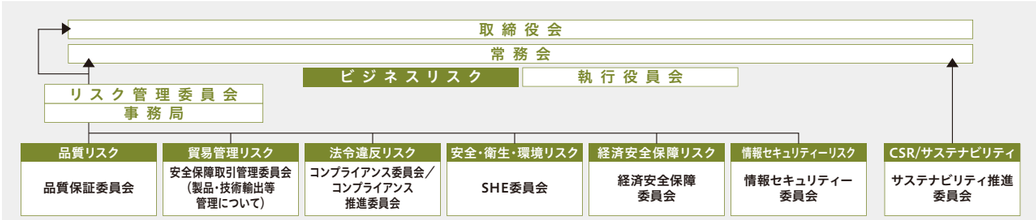
国内外グループ会社における法令等の遵守

バルカーグループは、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外グループ会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

知的財産権管理

知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発の各段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行い、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

リスク管理体制（2025年4月1日現在）



腐敗防止

贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、「バルカーグループ贈収賄防止基本方針」で右記の事項を定め、グループ会社を含めた全従業員に対し、本基本方針および事業を行う国・地域の贈収賄防止関連法令、ガイドライン等を遵守することを求めています。

- 公務員等に対する贈収賄、ファシリティペイメントの原則禁止
- 代理店等の起用時の事前調査
- 会計記録の作成・保持
- 違反行為等に直面した際の通報・報告

コンプライアンス

15 法令等の遵守

コンプライアンス

基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」を掲げ、コンプライアンスを経営の基本事項と位置付けたうえで、理念に基づいた経営を推進しています。

しかしながら、2024年に一部の執行役員および幹部社員が関与する重大なコンプライアンス違反が発生し、長年築いてきたステークホルダーの信頼を失墜させることとなりました。

この不正事案を今後の発展のための学びとし、当社は11月14日を「コンプライアンスの日」と定めました。二度とこのような不正を起こさないという強い決意のもと、再発防止策の徹底と風土改革を進めていきます。

一人ひとりが「THE VALQUA WAY」に基づいて自ら「正しきことは何か」を考え、自ら判断する力を磨いていくことこそが、本質的なコンプライアンス遵守につながると信じています。

コンプライアンスハンドブック

6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、タイ語、ベトナム語）に翻訳した「コンプライアンスハンドブック」を、国内外の全社で展開することで、コンプライアンス遵守を単なるルールの遵守にとどめず、日々の業務における実践的な行動として定着させ、すべてのグループ社員がその重要性を深く理解し、業務の指針として行動に反映させることを目指しています。また階層別では管理職・リーダー向けおよび役員向けにそれぞれ「ハラスメント防止のための行動ハンドブック」および「企業経営とコンプライアンス－役員の経営責任と重要課題－」を発行しています。

報告・相談・通報制度

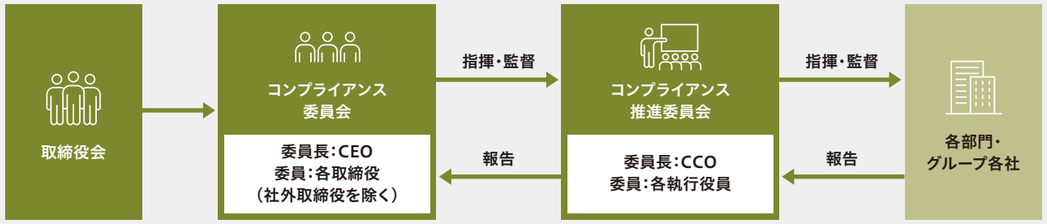
全グループの役員および従業員が法令や社内規則などに関する報告・相談・通報ができる仕組みとして、①意見箱/ボイスボックス、②社内相談窓口、③CEOへのダイレクトライン、④外部企業倫理ホットライン（6言語対応）、⑤社外弁護士への相談窓口といった各種窓口があり、通常の指揮命令系統から独立して運用しています。窓口に報告・相談・通報があった案件は、「内部通報に関する規程」に沿って対応し、結果については、窓口利用者への連絡先が不明の場合を除いて、報告・相談・通報者へフィードバックを行っています。運用においては個人のプライバシーを尊重し、報告・相談・通報者に不利益が生じることがないように配慮しています。

また、2025年4月から、窓口の信頼性向上のため、報告・相談・通報について社外役員（社外取締役および社外監査役）が関与する仕組みを整え、運用を開始いたしました。

このような窓口の運用に加えて、自主的な通報を促し、不正等に係る情報を可及的速やかに発見・把握し、早期に是正する目的で社内リニエンシー制度※を設け、全グループの役員および従業員が利用しやすいと思えるような報告・相談・通報制度へ見直しを図りました。

※自主的な通報や調査に協力した場合にその態様や諸般の事情に照らして懲戒処分を減免できるといった制度

コンプライアンス体制



16 環境関連法令等の遵守

環境リスクマネジメント

活動体制

バルカーグループでは、環境に関する方針、活動計画、活動推進を、CEOを委員長としたグループSHE（安全・健康・環境）委員会にて一元的に推進しています。

近年世界的に環境規制強化は進み、グループでは環境規制対応能力向上のための施策を強化しています。そのなかで国内外生産会社における環境法令違反は、前年度に引き続き0件を維持しています。

また製品に関連する化学物質規制強化の流れについては、規制に先んじて製造工程内の化学物質を低減する取り組みを行い、作業者の健康影響リスク低減を積極的に進めています。

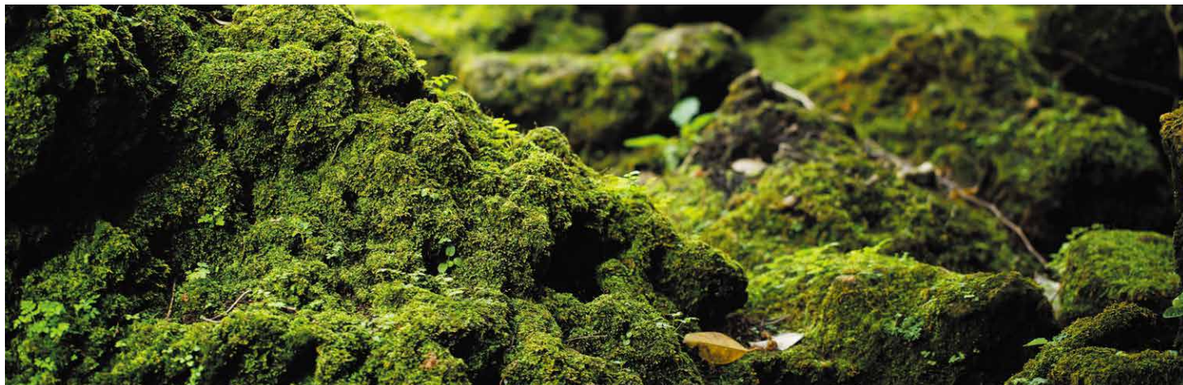
また、2024年度からはグループSHE推進体制のもとで、生産および開発現場における「環境パトロール」や「ヒヤリハット報告」を開始しました。環境法令違反につながるリスクを事前にリストアップし、定期的な現場パトロールを実施することで、リスクの芽を未然に摘み取るとともに、全従業員の環境意識向上に努めています。

各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・管理の実施

国内外グループ生産会社は、ISO14001システムにより環境法令管理を行っています。

また、日々変化する法律遵守を確実なものにするために、コーポレート部門では関係各国・地域の法令情報提供サービス会社の支援を受ける一方、特に法規制が曖昧であったり、規制強化の動きが顕著な海外においては、環境分野に精通した現地コンサルタント会社や法律事務所と契約し、日本と現地両面から日々の法令管理を強化しています。

さらに、環境法規制を担当する生産会社の管理者を対象に、社内で法務研修を実施し、管理能力の向上に努めています。



バルカーグループネットワーク

国内ネットワーク

株式会社バルカー
〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24F
TEL(03)5434-7370 / FAX(03)5436-0560

1 **株式会社バルカー 名古屋営業所**
〒457-0013 愛知県名古屋市南区寺崎町14-8 さくらビル24
TEL (052)811-6451 / FAX (052)811-6474

2 **株式会社バルカー 彦根営業所**
〒522-0074 滋賀県彦根市大東町2-38 SISビル西館2F
TEL (0749)26-3191 / FAX (0749)26-7503

3 **株式会社バルカー 大阪営業所**
〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-7-7 WAKITA堺筋本町ビル3F
TEL (06)6265-5031 / FAX (06)6265-5040

4 **株式会社バルカー 北九州営業所**
〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町2-2-1新小倉ビル
TEL (093)521-4181 / FAX (093)531-4755

5 **株式会社バルカー 熊本営業所**
〒860-0822 熊本県熊本市中央区本山町218-5
TEL (096)364-3511 / FAX (096)364-3570

製造・研究開発・人材開発拠点

6 **株式会社バルカー M・R・Tセンター**
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2
TEL(042)798-6770 / FAX(042)798-1040

販売関連会社

7 **株式会社バルカーテクノ**
〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1
ThinkPark Tower 24F
TEL(03)5434-7520 / FAX(03)5435-0264

研究開発拠点

8 **株式会社バルカー 奈良事業所**
〒637-0014 奈良県五條市住川町 テクノパーク・なら工業団地5-2
TEL(0747)26-3330 / FAX(0747)26-3340

生産関連会社

9 **株式会社バルカーシールソリューションズ**
〒637-0014 奈良県五條市住川町テクノパーク・なら工業団地5-2
TEL(0747)26-3330 / FAX(0747)26-3340

10 **株式会社バルカーミカワフロンテック 本社**
〒441-1347 愛知県新城市川田字本宮道8-52
TEL(0536)23-0382 / FAX(0536)23-5102

11 **株式会社バルカーミカワフロンテック 田原工場**
〒441-3403 愛知県田原市浦町鬼塚39−22
TEL(0531)27-6061 / FAX(0531)27-6062

12 **九州バルカー株式会社**
〒820-0073 福岡県飯塚市平恒1-7(飯塚工業団地)
TEL(0948)25-7137 / FAX(0948)29-2966

海外ネットワーク

東アジア

1 **VALQUA SEAL PRODUCTS(SHANGHAI)CO., LTD.**
2 **VALQUA(SHANGHAI)TRADING CO., LTD.**
Location: Shanghai
3 **VALQUA KOREA CO., LTD.**
Location: Seoul
・**ULSAN OFFICE**
Location: Ulsan
・**PYEONGTAEK FACTORY**
・**APPLIED R&D INSTITUTE**
Location: Gyeonggi-do
4 **TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL, LTD.**
・**STSP Branch**
Location: Kaohsiung City
・**HSINCHU OFFICE**
Location: Hsinchu City

アセアン

5 **VALQUA VIETNAM CO., LTD.**
・**HAI DUONG FACTORY**
Location: Hai Phong City
6 **VALQUA INDUSTRIES(THAILAND), LTD.**
Location: Samutprakarn
・**RAYONG BRANCH**
Location: Rayong
7 **VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.**
Location: Singapore

北米

8 **VALQUA AMERICA, INC.**
・**ADVANCED SEAL TECHNOLOGY INSTITUTE**
Location: Sunnyvale, CA
9 **VALQUA NGC, INC.**
Location: Houston, TX

■ 研究開発拠点

会社概要

商号	株式会社バルカー（英文表記 VALQUA, LTD.）
本社	〒141-6024　東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
創業	昭和2年1月21日
設立	昭和7年4月8日
資本金	約13,957百万円（2025年3月31日現在）
従業員数	426名（グループでは1,536名、2025年3月31日現在）
事業内容	◆産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業等、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴム等各種素材製品を設計、製造、加工および販売 ◆ソフトウエア・情報機器の開発および販売、関連する電子商取引などインターネットを利用した各種サービスの提供、コンサルティング、エンジニアリング、その他技術・ノウハウに関する事業
グループ会社拠点所在地	◆本　社／東京（品川区） ◆営業所／名古屋、彦根、大阪、北九州、熊本　◆研究所／奈良、東京（町田市） ◆国内グループ会社／5社（東京、愛知、奈良、福岡） ◆海外グループ会社／9社（中国、台湾、タイ、韓国、シンガポール、米国、ベトナム）（2025年3月31日現在）
決算期	3月

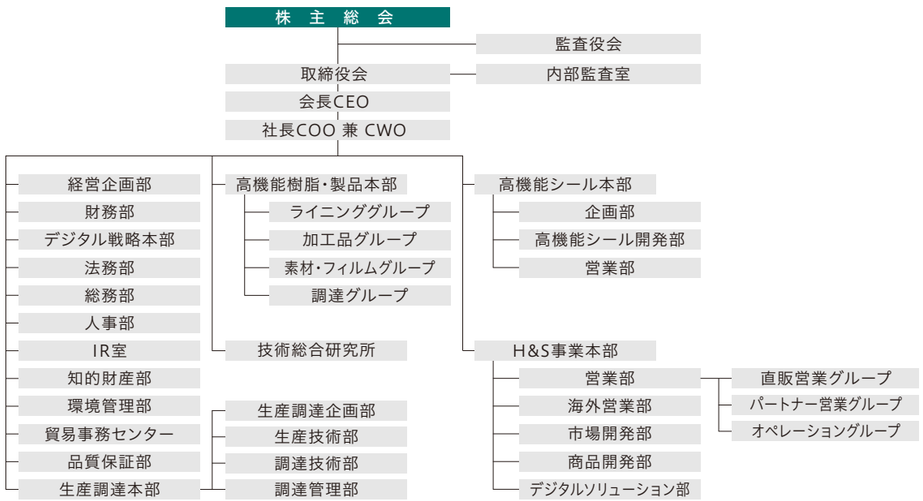
役員一覧

役　職	氏　名	担　当
代表取締役会長	瀧澤 利一	CEO
代表取締役社長	瀧澤 利治	COO 兼 CWO
取締役副社長	中澤 剛太	CFO 兼 CDO
社外取締役	成田 学	
社外取締役	齊藤 三希子	
社外取締役	沓澤 浩也	
常勤監査役	髙 昭夫	
社外監査役	高橋 秀法	
社外監査役	戸井川 岩夫	
専務執行役員	椿山 善昭	総務部長 兼 T.V.W.推進担当
専務執行役員	神田 大輔	高機能樹脂・製品本部長
常務執行役員	小川 禎	会長CEO担当秘書長
常務執行役員	谷田部 麻美子	CCO 兼 法務・環境管理担当
常務執行役員	伏屋 克俊	生産調達本部長 兼 生産調達企画部長 兼 安全担当
常務執行役員	小野 幹仁	H&S 事業本部長
常務執行役員	川上 孝弘	高機能シール本部長
執行役員	野邊 淳嗣	高機能樹脂・製品本部副本部長 兼 台湾バルカー国際総経理
執行役員	今井 将廣	H&S事業本部副本部長 兼 営業部長
執行役員	門脇 貞幸	財務部長
執行役員	村上 良太	H&S事業本部副本部長 兼 バルカーベトナム社長
執行役員	能勢 正章	技術総合研究所長 兼 知的財産・品質保証担当
執行役員	堤 直彦	経営企画部長 兼 IR室・貿易事務担当
執行役員	村井 公博	高機能シール本部副本部長
執行役員	岸 優子	人事部長 兼 人材開発担当
執行役員	木下 祐介	デジタル戦略本部長

CEO＝最高経営責任者
COO＝最高執行責任者
CWO＝最高ウェルビーイング責任者
CFO＝最高財務責任者
CDO＝最高デジタル責任者
CCO＝最高コンプライアンス責任者

2025年6月25日現在

組織図



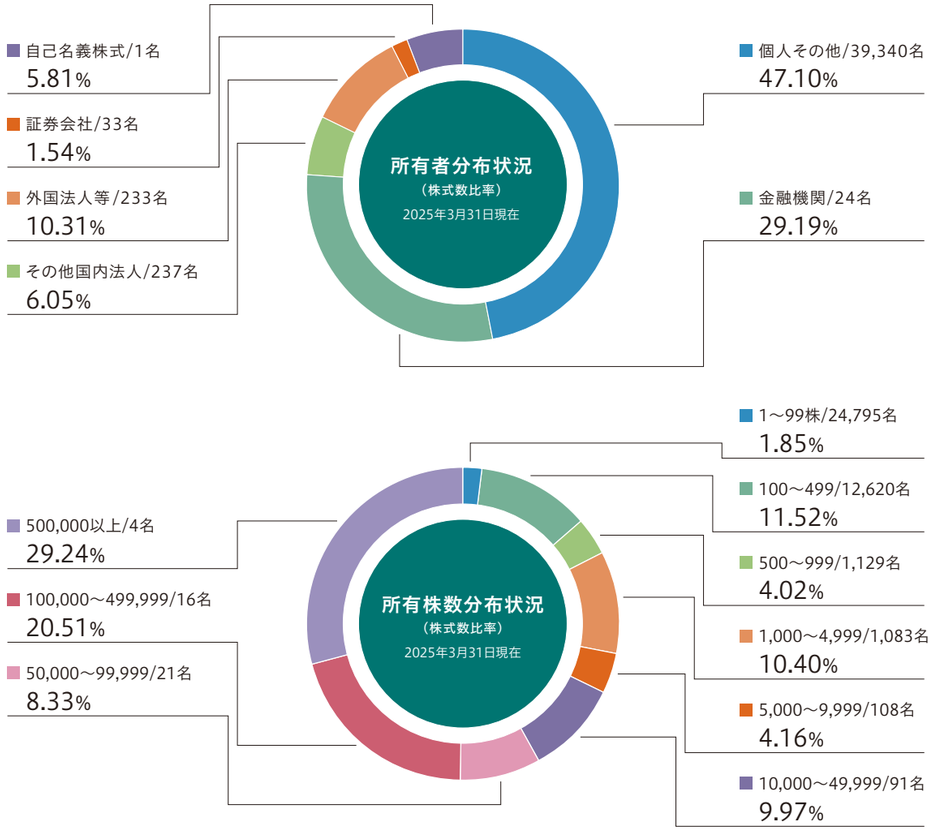
2025年6月25日現在

株式情報

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
68,000,000 株	18,688,733 株	39,868 名

2025年3月31日現在

株式分布状況



大株主

大株主
（上位10名）
2025年3月31日現在

順　位	株　主　名	所有株式数（千株）	株式数比率（%）
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,623	14.91
2	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,398	7.95
3	バルカー東京共栄会	586	3.33
4	株式会社三井住友銀行	537	3.06
5	三井住友信託銀行株式会社	400	2.27
6	瀧澤　利一	398	2.27
7	中山　慶一郎	320	1.82
8	ダイキン工業株式会社	285	1.62
9	バルカー大阪共栄会	274	1.56
10	瀧澤　椎子	243	1.38

※当社は、自己株式1,086千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。株式数比率は自己株式を控除して計算しております。